江戸名所図會

一 一六


和書門
類 八八六三
號 一一六
函 一一
架 二〇



内閣文庫
和書
類 八八七〇
號
二〇
冊
一七四
函
八
架



内閣文庫
番號 和 8870
冊數 20 ( 16 )
函號 174 36


国立公文書館
National Archives of Japan

江戸名所圖會卷之六

## 岡陽之部目録

金龍山浅草寺　観音堂　古墳
　地蔵菩薩　古碑
　聖観世音　慈覚大師護摩壇の舊跡
　平田玄蕃石像
　二天門　二尊者
　十二月十八日歳の市
　雷神門
　宝蔵
　十王堂
　鐘楼
　淡島明神社
　稲荷社
　弁財天
　鎮守社
　六角堂
　十社権現社
　淡嶋河
　焼地蔵
　鐘堂
　輪蔵
　念仏堂
　淡嶋明神
　楊枝水
　随身門
　閻魔堂
　仏殿
　二尊者石像
　節分会の所
　清水稲荷の社
　聞魔堂
　多聞堂
　東漸寺
　誓願寺
　除厄太子堂
　信州善光寺焼地蔵

社寺文庫

浅草寺

浅草明神社

稲荷社

多聞明神社

手向地蔵菩薩

日輪寺

海禪寺

祝言寺

向乗観音堂

極寺

浪居八幡宮

西福寺

東禅寺

報恩寺

天嶽院

清水寺観世音

長遠寺日蓮大士

三島明神社

大猿茶八幡宮

第六天神社

浄念寺

報恩寺

稲荷社

上宮太子堂

幡随意院

国立公文書館
National Archives of Japan

永昌寺
東叡山山下の景
養玉院
金松安樂寺
不動堂法印の松
水戸義絶第宅図
後るの塚
熊野権現社
彼岸桜の景
徐水氷陀如来
白籠塚 白籠耕地 蛍塚
石淵
牛頭天王祠　天満宮
廣徳寺
大乗天祥社
長壽陶覺堂
根岸圓光寺 庭中 名物
心燈寺 園中 楓樹
養論西光寺
万里小路寓居之地
飛多明神社 瑞光石
光源院
洲岡の洲
小塚原天王社
子育大橋 隅田川
富士洲岡宮
西方丸法大師堂　大師加持水
梅田明王院　天満宮　不動堂
石淵城跡
下谷稲荷社
常樂院 二番目
入谷庚申堂
上野坂本口図
小野照崎明神社
時雨岳
子来郷 子来稲荷社
山谷熊田明神社
誓願寺
浅田延命寺 二番目
十二天森
八月村八幡宮
鬱大明神社 同宗の和
名日神明宮
思ひ川
下谷図
隅田川渡
総泉寺 宇多天八道墳墓
竟ろ尤
東野先生墓
長昌寺 宋論の芝 種の浦朱面
山谷塚今戸稿の碑
聖天宮
石淵古戦場
宗教別尚寶塔墓
桜懸掛松
法源寺 従二位有 橋天文最通石塔
今戸八幡宮
正平合戦之図
茅ヶ原
茅ヶ原女塚
碑水鶯の景
慶養寺
彩吉原町
加尾不動堂
妙亀塚 妙亀明神社
亀姫稲荷社
今戸陶器師
吉原

金龍山淺草寺　傳法院と號す　坂東順禮所第十三番目なり　天台宗にして東叡山に屬せり

按るに東鑑に建久三年壬子五月八日法皇四十九日の御佛事に百僧供を修せらるゝと其衆に僧元の中淺草寺よりも三口とあり又同書に建長三年辛亥三月六日淺草寺へ牛の如きもの忽然と出現し寺に走入時に寺僧五十口ばかり食堂に集會する所に件の怪異を見て廿四人立所に病痾を受七人即座に死去するよしと記せり寺僧五十口ばかりとあるを見れば往古も殊に大伽藍なる事を知るべし永祿二年小田原北條家の分限帳に淺草寺家分四拾貫九百文を附せらるゝよし出たり

本堂　本尊聖觀世音菩薩　世に傳ふる御長一寸八分と志られども古より秘佛にして輒く寶帳を褰されば其實を知がたし

脇士　梵天帝釋　むらさきの一軸とかゝる紙に此二尊は行基大士の作なりとあり　四天王　脇壇　右不動明王　左愛染明王

後左右　三十三身像　其余堂内に諸の佛天を安座す中にも賓頭盧尊者は慈覺大師の作にして靈驗いちじるし

額　觀音堂　御拜の上にかゝる　大明福州漳郡龍邑徐紹勲筆

額　絶無畏　外陣の家帯にかけてあり　深見玄岱筆　天井の龍あふひに内陣天井の鳳凰後壁の二十八部衆筆は狩野永眞の筆拜殿の天井に畫る天人は狩野洞春の筆なり

聯　内陣の左右に掲る印

山路月影雲光瓮之世能移焉

攝州松隱竹居祥之書入園圖

にえ壽の二字で住す筆者孟寛の傳あれども志けき紙にとむくくに畧せり

古繪馬　脇壇左の方不動尊の前にかけたり世俗古法眼元信の筆なりといふは誤なり

寛政の始本堂修営ありし頃狩野何某觀是を影写す実に六七百年を経たる古物なりといへり傍に畫家の名及印章等あれども湮滅して讀べからず既にしてあの性をそこなひあへり

傳いふ往古此馬毎夜に額を拔出て境内の草を喰あらし近き田畑をもあらしければ其頃左甚五郎といへる名譽の彫工を頼みて曳縄を書添しむ仍其後は此事止みけるとぞ

是大なる附會の説なるらん曳縄も同時の物にして後世書加へたるにはあらぬと思へり依て辨じ明かにす

されど畫する所の馬に靈ありて拔出るといへる事頗る妄誕に似たりといへども其例とするあり

歴代名畫記卷第八に云く唐世祖の時楊子華といへる人あり嘗壁上に馬を畫く其夜嘶て水草を索るが如し仍て天下號けて畫聖と称すと云々又

揮麈後録に曰聖宮門の兩廡の下に畫く所の人馬これ流汗の跡あり慶曆中に一夕人馬の声ありけるに是を視るに汗の流るゝあり今に至りて蔵せりと云々

元亨釋書に云く昔天王寺の道公紀の熊野山に安居して業終て帰るさの道暮けり遠んで大樹の下に宿りて其夜半騎する者あまた樹下に来りて翁ありやといふ一老翁答てありといへり彼者云く何ぞ旅に進まざると翁答て云く予の馬脚損して乗事能はず任よ齢もなき襄へるといひて是は徒歩より行くべきなりと答へ之を聞くがいさゝか畧くなりぬ明旦公怪しく樹下を見るあるに

金龍山
浅草寺
全圖
共五枚

田園雜記

浅草といふ所より
庭小蔵れる茅屋を
みそれ色の
ちる柳葉の
うら枯れ
蛛の家をも
のこすと
庭うれ

道真淮后

東國記行

角田川もえいでうるる
春の夕うるる柳ありとは
冥東順獲覩ある浅茅ヶ宿
和とうん立より乞結孫
とべーあとといへ

秋うるる木末はれ花も
あちらさの
露うるれうの
角田川うれ

宗牧

其二

二十軒茶屋は
宇仙藥屋とも
いひ昔いとの不の
茶店なるべし御福の
茶まのれとて茶
店の人をいはひることを
今も其の孔の負
二十余軒あるかよ
偖是をよむべし
二十軒茶屋と
ひとくくり

立元集

石の
枕
鯨や
かつ
今
茶屋

其角

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

富士
水茶や
法威能救衆生憂
小白華山彼岸舟
若把馬泉令渡水
應同海底有泥牛
羅山子

揚弓
芝居
其
五

小神祠ありその像杉樹を敬ふ一行の古さ絵にるるかり前足のところその板破裂せるかするかち糸をも用ふ繋神前の神言をあらうんと

しく冷の夜も狂樹下ふ宿と中夜すさ猪馬の人来つて前を宿る公用ありて小案

暁小王つく帰をさくう公小伝謝しく云く師

馬の脚を治しあんこと幸に小堪くう公向猪ちる

のくそ行と前日役夜祈管内を巡れるあり

も其お掘そうり生れハ

うるくく駡を受く今師の

恵を蒙り茶慶甚深しとそ

丙辰記り小昔ゆ不小牛鬼の出く

走りあるくくと小不圖出ハ歩く

くくと大士の化現なれるかとそ

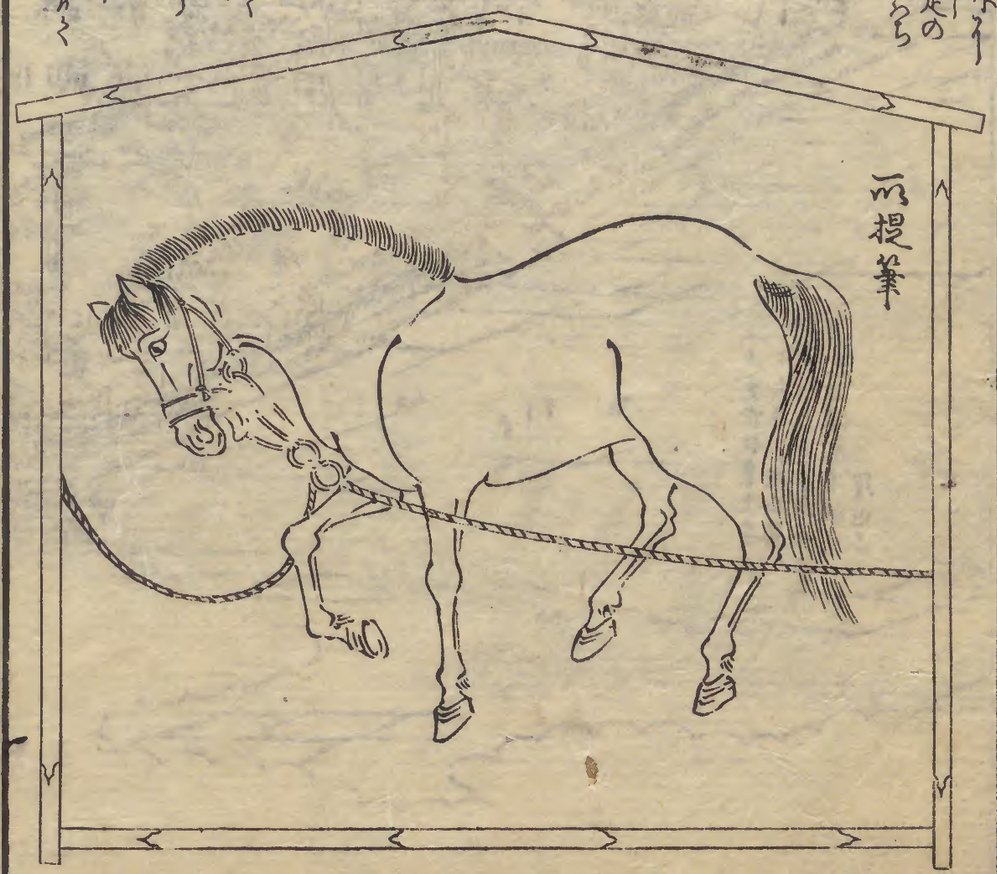
牛ハ出るとあり〜りそとあり

すくく

峯白糸めつの道の紀小云く

俄草の観音とくく函ゆとりてかく

るす佛おくとにハ小すりとて



而提筆

いろなれや狩辺小かり餌の渉草のかぶむぢむ牛ぬたのとつる　長嘯子

按小峯白集ものとも其のとなれとうそもろ越の似たるるを旅せり牛く丙辰記行ふも馬を

大士の化身ありあと辛此絵るる小霊あらく抜くく事れしとも云へくと此繪る昔も人の

のとそ毎〜くく小や寛永年中観音堂回緑のとそ木村市兵衛と云る者来り名畫の筆跡

焼うたんすを歎き助けくしたくく別當智樂院僧正其志を感しく絵馬の縁り左の

如く記しを立てり

寛永十九壬午二月十九日炎焼之時武州江戸之住木村市兵衛出ス

紅葉狩繪馬　ほ〜所小掲ちり曾我蛇足九代孫曾我宿叔

の筆ゆ

静長刀　本堂の後の方家帯小かけくあり世小義経の妾静御前納る所ありと云伝へ

静梳の長刀弥信志浮三郎兼氏の作なるべしと

山門　楼上小文殊菩薩の像を安置ス横下の左右ハ金剛力士の像を置来由ハ此巻数恩

寺什宝蛇反鉄の条下小詳ちり

後人の作ちり毎年春秋二度の彼岸の中日ゆ〜小正月七月十六日ハ諸人の登るうとゆ〜と

額

# 浅草寺

曼珠院二品良尚法親王真蹟

五層塔　山門の内右の方小あり　内小五智如来を安置す

轉輪藏　因所小あり一切経を収む前小傳大士ゆ〜ひろ普

雖の建立〜と今あり所の堂ハ天和年中　賢普成の像を置此ゆ〜の堂ハ甚始妄房宗久

焼亡の後の御建立ちり　隨身門　因所東のろ小あり豊般若同戸

按ちろ小本ゆ縁起の中小永和二年戌子十二月十三日　命婦般若同戸命の像を置ス

送りとりくとも赤一ちりの再興も銭さと大元愁ゆ絵さる所小徐行の聖定欲ちるりの十方小勧進

愈永小ヲ以テ敬終成就セントアリ然ハ所記載の書小疑敷中安居字ハ弥陀観音堂再興のとき
一軀の息障を儲ケそくく一樓小ふるとあるハ永和の田畑小亡ひ障のみをもて至徳ニ年小ふり
再ひ今ある所の鐘障を儲治ヒとあるハ至徳ニ年小ハ慶と改元の年ナリ

日本國武州豊島郡千束郷金龍山浅草寺洪鐘銘
並序

夫鐘者震梵苑之枯禪發騰檀之深省者矣南閻浮
提各以音聲長爲佛事西郡勝地特開樣蕃揔此道
場於是傳法聊持短疏勸發善縁新鑄息乳之鐘永
扣龍澤之月耳根契證者速趣解脱之門庭眼裏聞
聲者則蘿山通之燒果當時若不記者後代誰得識
哉銘曰

末鑄成前　響隅九天　新鑄成後　福應大千
規摸脱出　當空高懸　輕撞者　堕佛事邊

至徳二年丁卯五月初三日　大勧進僧都海鑒
小勧進大和國道高
鑄工和泉守經宏

三社大権現社　本堂より艮の方小あり公師臣中知ちらく小乳く檜前濱成武成等の霊を配已崇
初則當寺の護法神とす世小三処の護法ともいつり神鮮ハ慈覚大師の作と之當社
い俄季の勅法守ちり　て祭礼い三月ト日開年小執行あり三社の来由ハ本ちる縁起の中小詳ちれい　華表
ち小畧と傍の堂ナリ　荒澤不動ちる歓喜天等を安ちす
額　三社大権現　隨喜　樂院一品ゑ遵法親王真蹟　熊谷神社　本堂の後の方ちり
ちる人勧請と来由い解ちをひくく小畧と　あり熊谷安左衛門
内陣小狩野周信筆の梅鉢慶の掛繪あり　十社権現祠　同所左の方小あり十人の草刈を描ちと
そり来由ハ本ちる縁起の条下小つまひらく

念佛堂　同所小あり阿弥陀如来を安置ちと
昼夜二六時中小念佛を唱ハ
十六日条偏群をちちり額小閻王殿と
あり朝鮮國真筆金啓升の筆ちり

閻魔堂　本堂の乾の方小あり閻魔像
ハ運長の作ちり毎年正月七月
同堂中小あり慈覚大士の作
脱衣婆像　同所井の傍小あり世小長石地蔵と云又偽て小野小町ち石塔とも称ち弘法大師の作ちりとも
ハと共小偽ちり長さ丈余周さ尺六寸程厚さ二寸ちり　寛保二年八月の暴風小吹折
て今三段とちれり上の方小傳法院講の中稽考の義紛の傍小あり　其形状上小地蔵菩薩の種字を
撞中段小立像の地蔵ちを刻と側小浦門是を弘礼ち　幹相あり又下の方小花瓶小蓮花を挿其
左右小文字三十有九字を撞ち其文小云く

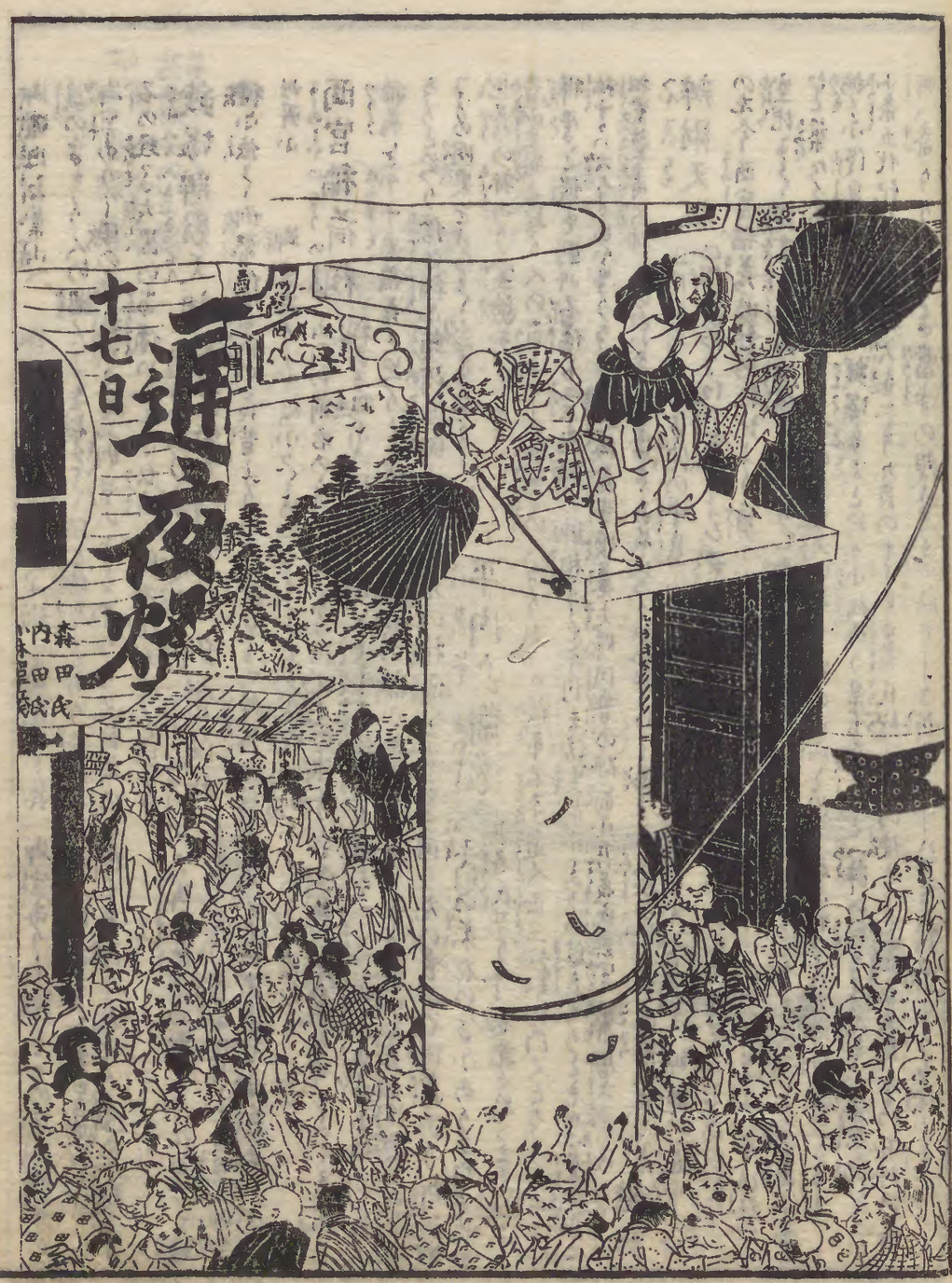
右志者四殊由三昧波彌西佛先妻女並男女二子
爲一殊四彌西佛現當二世諸願四満西佛敬白

按ろく西佛と称る者二人あり　是非を弁其一ハ法然上人の弟子小頭宮門跡五帝義傳
盛政入道西佛又其二ハ海北幸親の男藏人通廣世小ち夫ハ覚明と云是ちり後親鸞上人
の弟子とちり西佛と号と又其三小東鑑建長五年八月廿四日ハ絶妙ハ辺庄の堤を築
固ちる中沙汰あり奉行人を定ちりと云ちる田三郎入道西佛と云名を挙ちり
少くのち同名三人ありてあれハいつれを是とすべや御面年号を記ちれい様小定ち已後人の評正
を俟と云

護摩壇之跡　同所然ハ権現の後の方ハの中小あり寛和帝天長年間慈覚大師東国
御巡化の路次遊学寺小暫ち堅願小持念するのあひだ三社権現の霊示ありちり
加護人法の繁榮を祈りあり　遊化の法燈とちり　一千座の護摩を修し
ち　吸東順礼記ち出ちり　護國殿　同所小あり九大明王の像ちり　自然木の
東照大権現の御宮あり　須の護摩堂ちり　多聞天等を安置ち堂ハ往古鳴明神の沈小
俗此所へ遷ちりと也　奥小杉其あるハ葵の御紋を　寛永十九年二月の炎上小焼残ちりちをその
沈鳴明神社　本堂の北の方小あり昔此地小　東照大権現の御宮ありしち寛永十九年
二月十九日門前より出火ちと共時ちあるつて　御宮焼亡ありし小依

六月十九日
祭礼の
祭禮之圖

国立公文書館
National Archives of Japan


十七日
通夜
森田氏
内田氏

節分會
世音菩薩
世俗人

兵藤平内左衛
二王座禅像

御城内弘業院、　御迎堂あり、此堂に其孫、此神を勸請す其　御宮あり、此堂の方に其孫、此神の
後の方ちりんの縮んを忍ぶ、拝を徹す、傍の六角堂小地蔵菩薩と共に是も
御宮あり、頃の作供小さし、則堂のうち井ちりと又社前の石橋も其他小祠ちり傍の小祠ちり
石の蛭子大黒のあ像いとも小弘法大師の作ちりといふり
銭塚辨財天祠　同所小あり来世幾羅　例幣使松　同所御手洗池のかくれにあり て拝
礼礼の糸小詳ちり　をめぐりちり毎年月十七日日光御参
禮小依り例幣使　参向の記昔よりのちりのちりて帰路の日いりのちりの地ちり休息あり 往ちり
此所小　御宮あり、此小ちりのとり、此小ちりの前の草の陰ちりちりに蛙ち
西宮稲荷祠　山門の前右の方小あり当山地主の神ちりと陰ちりちりに蛙ち
稲荷をか千束稲荷といふりと称して苦艾泉寺村小ちりとの
祠ある故小ちり是を上千束稲荷大明神とあるい大明院弘法親王の古墳
ちりと傍の祠小頓阿法師の他九人九の神像をあと又同一九の方小石地蔵あり祈願あ
りの因果をちりちり念仏ちり　因果　平内兵衛像　二王門の前右の方小あり平内兵衛
地蔵の祠あり霊験をいちちり　兵藤氏ちり耳底記とある書ふむり
青山主殿といふりの人ちりて強勇の人ちりと云ふ後年石平道人正三鈴木の門人とちりて
禅堂を修と則此石像も二王社禅の脇相ちりて平内左衛門ちりと
祠すれば大ちりあやまりちり弘法像寺墳墓夫婦同命の碑面小兵藤氏無墓一索居士兵藤氏　銭塚
松室墓室壽大姉とあれい平内左衛門生前小遠忌ちりとを世の人平内と
辨財天社　山門の前右の方地の中島小山の上小あり世小老女辨才天と唱へ神鮒い慈覚大師
の他といふり白戸崔をよん紫一本ちりを紀ちり延宝年中の白戸絵馬小も当社い二王門
の左今西宮稲荷の社地より奥小あるよりとあり
空地ちりと親玄哲至の祠像のあり堂社ちり紫一本小山門の東の方小大仏を安置ちり奉ち
と菜たり山ありといふりい今の弁才天の社あり不の小山とのちり奴ふむりい大仏小とのひるるより
地小島小祠の地小銭塚弁天といふり小祠あり是も当社と一鮒の神ちりんを小田原記をちり
小条五代記等の書小大永二年九月のちりの小条氏綱ちりの使とちりて冨永三郎左ちり右所の御
所へ奉ちりる帰ちる当寺の観音へ奉献ちり小折ちり十八日ちれい常ちりも殊小系伝の人

樣鯨とはとゝの鯨死堂の迎ふり鯨場ありて泰俗の人此魚をとる事倍制しかれども寛永年
間のころ以をもつて帰化するを民綱へかくれを記す

## 鯨鐘 因所小あり二尺時是を撞く

鐘銘曰寛永丙子歳大猷院家光公詣當山觀音堂見伽藍破壞即命改作之凡二十餘所又於堂後林中創建東照宮後僧數歳民屋火起神宮佛閣悉煨燼命老臣某等營造如初自爾以來超四十大風雨所侵寖至敗毀今幕下義先公之事起土木之功命山城守戸田忠昌使十帛左衛門尉建部昌孝五帛左衛門尉三浦義成八帛右衛門尉國領重清薫匠事嗚呼結搆之崇彩餙之美仰而可望俯而可欽功德之大豈可量哉其樓上所掛之鐘亦破裂困改鑄之備後守牧野成負喜捨黄金二百兩爲常般十二時之資糧鐘既成作銘序刻之銘曰

鎔銅鑄鐘治功已成撞之擊之殷殷雷轟
鐘本無音觸物能鳴一切衆生音聲種種
衆生一切種種音聲唯一銅鯨
鯨吼忽發迷夢頓驚厥德嶮嶮
誠念彼力菜称其名況斯薩捶
元禄五年次壬申八月日諸苦解脱悲願維明

武州豊島郡金龍山浅草寺
別當 權僧正宣存拜撰

鑄師　武州深川　大田迦江大掾藤原正次

## 石枕

浅草中東中谷町玉院小あり庭中小小さ化あり是を焼り化と形すすま当まの付形小けるの枕あり傳説に文明年中道真作后田園雑記小生る文章をと小記を頗る倍付と異ちり四紀さる をりつく〳〵尤小筆と其作〳〵 来るるの久〳〵化を志〳〵〳〵む

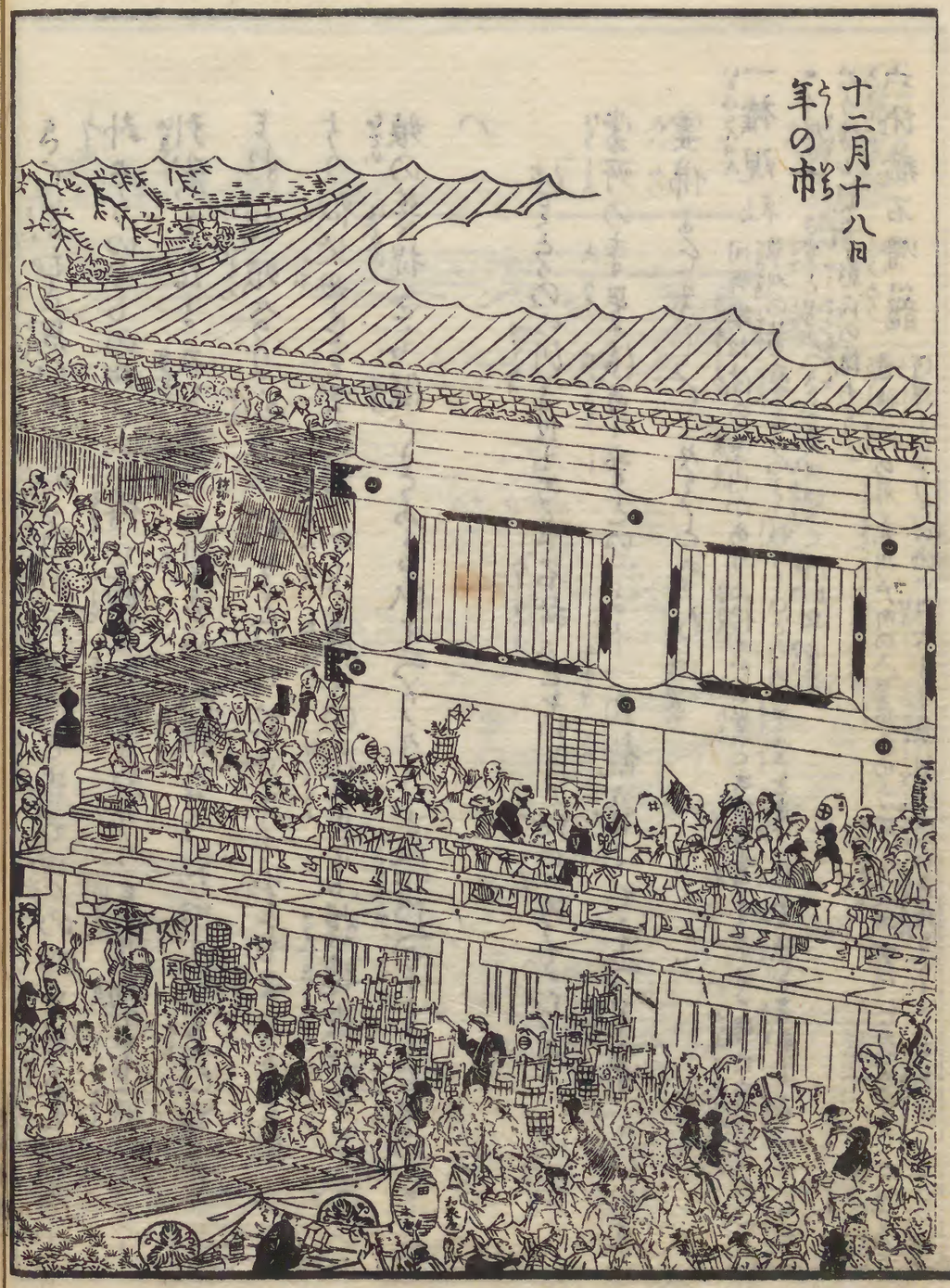
田園雑記云　此里北ろとてふ石枕といふるぬ〳〵たかふ石のり其故を
尋ぬるに中頃の年小やありそむあ年ちちひ作り娘を一人持まり
き容色ほるるよのつ祝ちりかの父母娘を遊母小ちて道ゆき
ゆとふおむひかの石北ろとてにいさちひて交會のぬとひとゆと〳〵
まりり兼てよりあいつの変ちれい折をたか〳〵ひて彼父母枕のろと
ゆに五寄くとも孫〳〵そりる男のりうへをうちたきて衣装以下
の物を取て一生を送り作りたさるほとふ彼娘ちやり〳〵ひとかゆう
あるりさ〳〵や茂役もちた世の中小かるぬ〳〵きの葉を〳〵て父母
りろとも小悪趣小蓮〳〵て永劫沈倫とむるのかれ〳〵さ先非小亜て
い悔ても益れ〳〵是より後のゆさま〳〵立夫〳〵て所給我父母を生〳〵出

さて見むと思ひある時道ひく人ありと告て男の如く出立て彼石ふみ
ゝ外ゝりいつもの如くを得て頭を打てたゝり急き物とも取むとて
引かつきたる衣をあけて見れば人獨ありけやーくとひてよく〳〵
これハ我娘なりゑむもられまとひてなさまーいとも云たゝをれーー夫
より彼父母ともふ發んーて度くの悪業をも懺悔して今の
娘の菩提をも深くとゝひまつりそゝと語ひくるよ〳〵古老のゝ伝
ハ

ほとゝきすの鳴る世もすきぬ石枕さこそおりゐ思ひるらめ

當所の寺号淺草寺といふる十一面観音ふとまつをきくひ仕さ
霊佛ゝまーー〳〵とゝ

一権現社　因所顕松院の境内ふあり上倍あかむ堂と云往古當寺本尊観世音出現のとこさ
草刈の葦蓼とりつく柱とひとつの草堂と建て彼霊像を安置ーー奉ーーー旧跡
ちり姫ふあるさ堂と影へきとと後世繆て所かゝ草堂と
とり傍小観なる影向の槐あり　雷神門の外荒川戸町の入に角ふあり姫ふ土人此所の江岸をさーとた池を
六地蔵石燈籠　河岸とゝりとの池い往古より奥州海道の馬次ちりーとを其頃ゝ今んゝの


十二月十八日
年の市

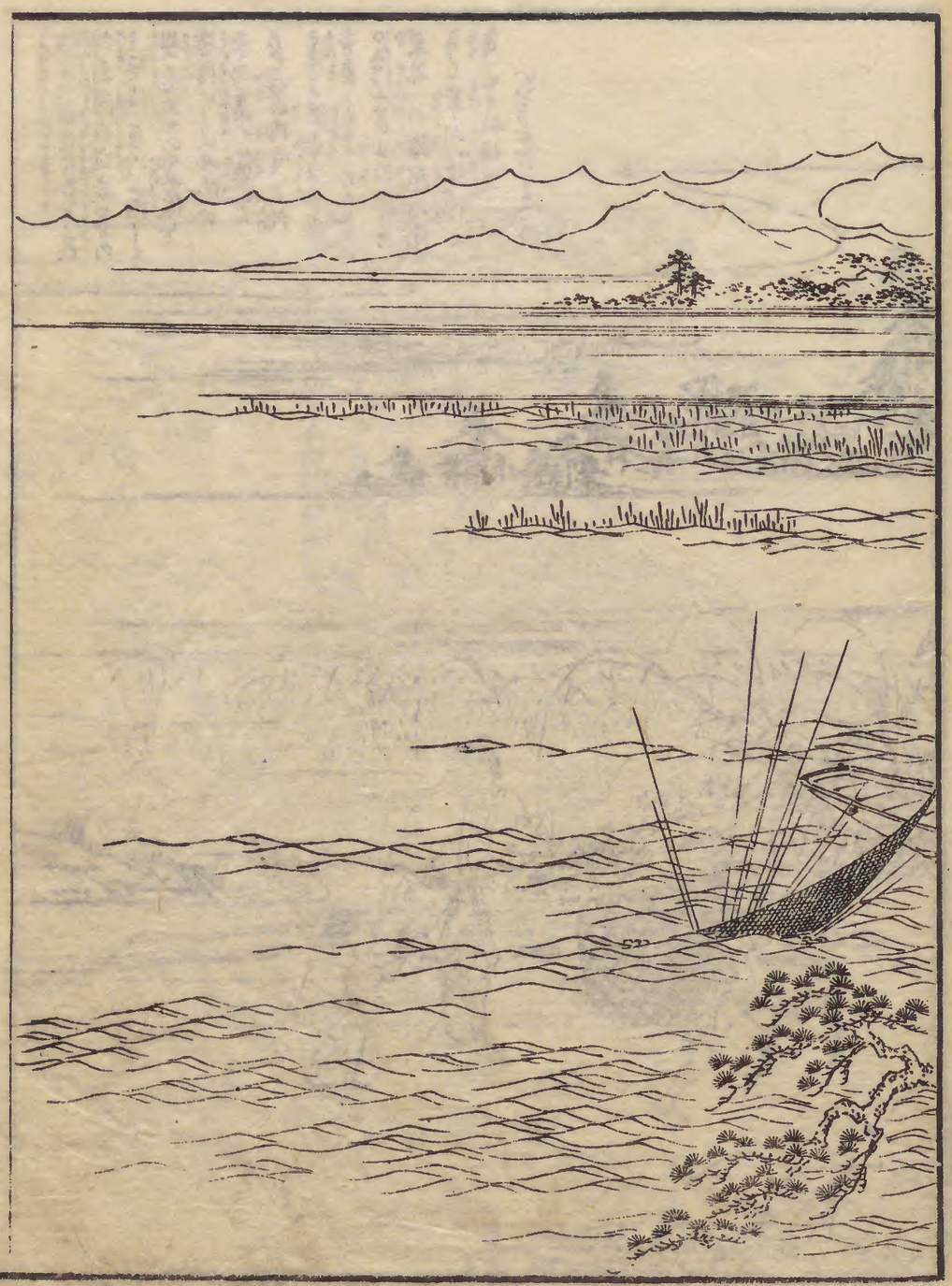
観音堂の
西面
念佛堂の
くゝとを
ながむる
図
大安寺
福徳屋

馬市
萩の内と
いつるよ
十二月
南部
桟鋪
桟鋪

門前張籠屋町ゆゑ此名ありと石燈籠のあるゆゑ馬場の名ありしかるに今も寺号
十二月十八日の市ゆゑ此辺草海苔を賣る家々ゆゑ近在より来る旅人ゆゑ止宿せしもの
伝云久安二年丙寅左馬頭義朝當寺観音へ祈願正清奉納あ
ゆゑ云久安二年丙寅左馬頭義朝當寺観音へ祈願正清奉納あ
ゆゑ竿石小路あれども文字剥落して鮮明なる唯久安六月十日一書小十月廿二日とあり兵衛の九字のみ今
猶現在なるさ六尺あまり必袋の
高小六寸の地蔵菩薩を彫刻せり
坊舎三十余宇　當寺八幾草寺一の精舎なりしが今小あり
故小悉く拾遺ゆゑ
専堂坊　斎堂坊　常音坊　此三坊ハ僧者三人の遠裔ゆゑ妻帯ありて今小あり
時も三人の輩三基の祢墓を供奉ゆゑ又三坊のうち
観音略記牛王宝印等を出せり　孫連綿として相續す　則滿年三月十七日祭礼の
雷神門　當寺南の總門なり左右小風雷の二神を安置せり明和の回禄小焼けて烏有となり
額　金龍山　曼珠院二品良尚親王真蹟
本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇土師臣中知といふる人故あ
て此地小流浪　旧本紀曰垂仁天皇三十一年野見宿禰小姫を土師氏の姓を賜ふとあり神見宿
祢ハ天穂日命十四世の孫なりとかるる中知も此遠裔なるへし山岡明阿弥
陀佛云中知ハ奈加登茂又登茂奈利とも訓ずとかるる　家臣檜熊濱成武成と云二人の兄弟附添て王従三
人恒小漁猟を産業として小年月を送る
小作と可ゆゑ日本後記小柃前舎人直由加麻呂武蔵国小美郡の人小して土師氏と迎を同
するとあり又延喜式兵部省諸牧の中にも武蔵国柃前馬牧とあり是等小よると
檜熊或柃前小作る新撰姓氏録小柃前舎人連と云沈時小柃前

同三十六年戊子三月十八日の朝碧落小雲消て蒼溟小
風静なるとき小舟小乗て此所の沖小出て網を下せ小俄小雨降て旧
名を宮戸川と称す　遊興ハさて小れて幾度も同て観音大士のそる像のそ小を湯小
異浦小至りて もいよ〳〵志かり依て主従弟子是を奉持して帰
機縁の淺深を思て其家小安すとも唯眞興の採小雑さを
忘るゝのを　世小草刈の童集つゝ樵を伐て小ゆゑ小依て　こゝをひて終小魚舎をあ
御堂を造るとかるる縁起小所見なり
多先て一宇の香堂を経営り彼尊像を安置て奉る　今の一權現の其
比其旧名なり
後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日霊告あり て回禄す　其後又三月
夫より四禄七度小及ぶとかるとも本堂ハ自ら火煙を免れて恙なし元人皆奇なりとす
是累年此地ハ漁猟殺生を業として行猟の所なれ焼除て清浄の霊場となるゆゑ
ハ本尊の示現ありしとそ依て　後久く堂宇破壊小をよひしを孝徳天皇大化元
炎上の後霊験いよ〳〵いちしるし
年乙巳勝海上人東行の次適て小来て再興す　則當寺の冠山と称せしとき
て奇異の霊告を小むり夫より　天慶五年壬寅安房守平公雅
勝海上人東行の尤容を拝
已降秘佛として拝するなり　大系図小従五位上平
公雅武蔵守小任ず
よりて記せり前大千記第六巻小菅原秀卿平親王将門を誅する功小よりて天慶二年三月廿九日
武蔵下野両国の守小任せらるゝとあり又同書小同四年七月十六日鄙記小二月　将門純友誅戮の時も
ハ濱成武成も小同
の
べたるゝん歌

浅草寺観音大士
の出現ありしハ
推古天皇三十六年
戊子三月十八日なり
土師の臣中知と云ふ
檜前濱成武成等
の主従三人その宮
川より網をかゝして
比本尊を得たり
しより縁記
の中に詳なり



往古土師臣中知とゝゑ
檜前濱成武成等の
主従一紙草川より細しと
観音大士の霊儀を
感得せし此地の
草刈集て藤棚を
なす仮の御堂を地
主殿より彼本尊を
安置しなりけるとも
いとゝ往古四郎八今の
東谷一の権現の地
なり草刈八後神よ
なりて十社権現と
いつきたてつるもの

国立公文書館
National Archives of Japan

両度の戰ひ小軍功あるを以て武藏守小任ぜられしの同五年の秋任限満すと雖病小かつと卒を依て雅
を中國の守小任ぜらるゝことあり又雅は常陸太掾國書の第上總介良兼の長男なり平將門を誅す切腹あ
て六郎を連

當寺小諸當國の大守たるむ度を祈求すいくたくるるを辞して辻任し

此國の守となるとくれは霊驗の空かゝけるをあやまき奉つて本堂をはじめ宝塔撞樓
樓門経藏法華常行堂所の社壇を造ゐ田園數百町を附して長く龍
華の曉を期せむ

又長久二年辛巳十二月廿二日大地震動して佛容顛倒
寂田門番梨永兼を年小造營す

遥小後白河院兼暦

三年己未十二月廿日堂塔回録す其時本尊尖中を生く坤の榎の枯るゝを
ぬ兼德二年戊寅正月藤原成實四箇年の間當國を津任し猶重任の望
めりく新願し霊驗あり依代々宰龍の田畑を尋くるえの如く皆絶入し奉
按小大系ある小原成實と云しく武藏介小
るありなるへあるを小孫原とあるは誤なるへし

其後左馬頭源義朝當寺へ奉請あるを
堂塔を修營し彼坤の榎を以新小觀音の像を彫刻して納らる

其像今内陣小安置座小
奉行鎌田兵衛政清と書あり又吾妻鏡に治承三年三月廿日源頼朝當寺觀音へ詣とあり寺名荒川
戸六地蔵の石燈籠の銘小文安二年丙寅とあるを鎌田兵衛の建立なりとあり依て小康治より文安
年小五年の間あれいろも政清命をつくし
普請のすをつくさるへしとの事なるを

又仁安三年戊子用舞法印大願小同じ
し佛閣を修營す治承三年庚子十月十七日

縁起小八月十七日とあるは誤なり十七日小
糸を初宗徒のくゝ牧判官兼隆ら鎌小

盛衰記をよん平家物語等の書小出るり名橋山の戰ひも同廿日のすゝとい申く妻戸の
國へもくゝさる先あれは頼朝當寺へ奉請あるを又盛衰記小治承四年九月十日武藏武藏下總
の境なる松戸の庄市川小着なるふと東鑑に治承四年十月二日武藏右廿
隅田の両河を渡らくとあれは八月十七日とするそおぼつかなる

右兵衛佐源頼朝奉請ける

く田園義平を寄附せるる是平家追討の新願小依くなり承久三年辛巳
に禅尼政子二品及相加武加両刺史致信し願書を捧け白檀の大悲の
像一軀と白色の綾羅の帳一あるれ信濃布千端を寄附あり寺へ伏見院
御宇正應二年己丑十月廿一日大地震とあるは仏門其頃堂宇の破壞を數十
方小勸進して正安二年庚子三月十八日修營落成す其後建武年中將軍
尊氏頃西發向の折小夢想小依く當寺觀音へ願書をとゝらるゝ同觀應
三年壬辰

今年文和と改元あり
南朝の正平七年なり

閏二月廿日

縁起小三月廿日と
講あり

武藏野合戦小も兼て勝
利あるへしを祈願あるて合戦の後美田を寄らる

永和二年戊午十二月十三日伽藍回録
すとあるも誤なるへし惑あるへ

至て回録九度小及へり其後嘉慶元年丁卯修行の
定徴なる者勸進の功を募て無永小いろ建立成就
上す其頃相加小小田原の城主北条氏綱當國を領しなれい破壞の諸堂再
興あるく大伽藍とし

夫より後天文四年乙未八月十八日炎
天文八年己未九月十八日當寺奉加帳小島津長穂軒大道寺盛
冨松田盛秀等の名を住し小是幸文の意小合とり又紀足軒

成山鶴の謡小元和年中迄の棟札小武列仰越の地主太道寺　忠善上人を以て別當職とす　忠善上人ハ駿河守是を奉行すとあり　上人ハ振品細川律師定禪の末葉武品金澤の城主北条幕下遠山丹波守の末孫なり又其師忠海上人こゝに當寺の別當　是より後ハ代々伊丹遠山の伊丹三河守の子なり三ヶ寺宿願の事あり　末孫を他門に相續せしとあり　別當職を然るに元禄年中故あるを以て　或人云鎌倉へ退居し夫より東叡山に属し當寺奉輦ハ殊に　別當知樂院權僧正宣存

大神君　御信仰最厚く依て寺領若干を附せられ寛永十九年二月十九日　田禄の後も慶安三年庚寅六月三日手鉾を以て堂塔御建立あり

なかく　公より修理を加へられ誠に無雙の霊場となり

修正會　除夜より正月六日に至る　牛王加持　同九日巳の刻執行す　同日三社　多羅尼會　同十二日より十日に至る

一七日の間昼夜　祭禮　開帳三月十八日　この祭れハ往古西和元年の神輿を本堂へ　神輿を仮草の大通りを渡し　仮草橋に　御輿の後に　武列六人　武藏等の海村より　櫂船を出し　櫂板獅子　武列の前　櫂板　毎年六月十九日執行　此日も三月十七日の如

養市　同日近在の農夫養を持て雷神門の前　櫂板　毎年六月十九日執行　此日も三月十七日の如

千日參　七月十日お夜より參詣群集　倍ふこの

羊の市　毎年十二月十七日十八日の両日　櫂に假屋を設け住連飾蓬業飾物等すべて　首の賀に用ひる種々を賣買す　仮草大通りに群集す　殊更境内ハ尺寸の地も

遠近に賣り往古ハ毎月三八の日此所に市立し　中に売る其量一定の言葉に迷ひ　行ひの鰹を以て量る

抑當寺ハ千百七十有余年を孫の古刹にして實に日域無雙の霊

區なり其霊驗の著るハ普く世に知所なり常に金鈴玉磬の響絶す焼香

散養の勤行怠る事なし朝より夕に至る迄參詣の貴賤袖を連ね場に

充滿す殊更月毎の十七日に通夜の緇素堂中に參籠して終夜誦経念

咒怠慢なし又境内賣物の数多中にも錦袋圓淺草餅揚枝殊枝五倍

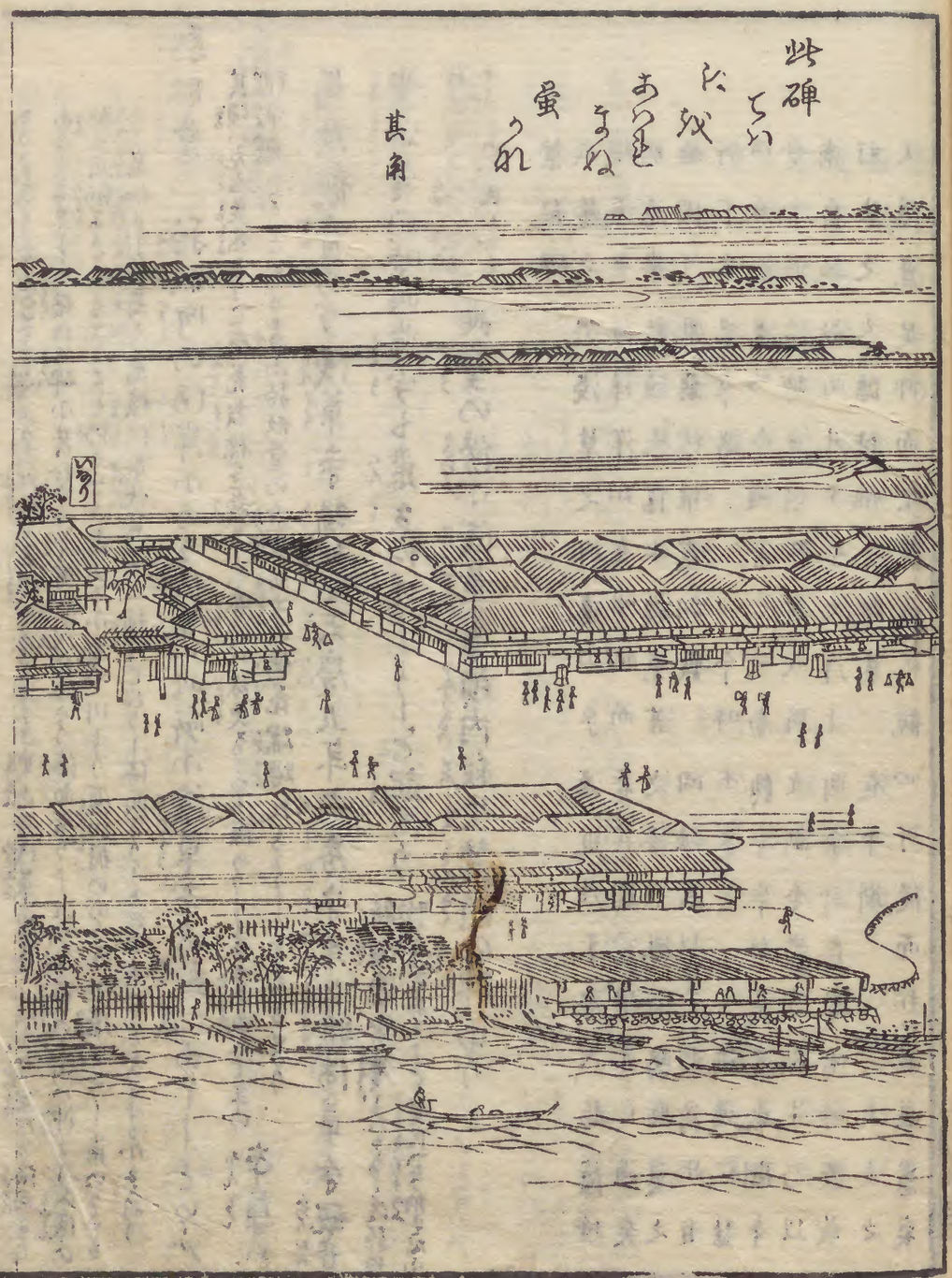
子茶釜酒中花香奠俗人形の類殊に淺草海苔に其名世に芳し手遊

錦繪等を商ふ店軒を並べ地邦の人に至り其繁昌を志へ

淺草川　隅田河の下流なり舊名を宮戸川と呼ん　宮戸川三屋戸に作る　白魚紫鯉の

二品を此の名産と美味なりと是を賞し鰻鱺蜆も又佳品とす

按に本朝縁起の中に宮戸川の中に細をかんとの事あり　源平盛衰記に治承二年九月頼朝小總より武藏へ打越らるゝ条下に名濱と書す所ハ江戸名所知行不明なり　西國船の着たるを按千艘あるの三日の中に浮橋を造るとあり　往古ハ石濱の辺入津の船多く西国の船もの来りしとなん　又氏康武藏野記行に隅田の小舟出中略むらしの妻房上總のあらうえ渡



国立公文書館
National Archives of Japan

さくとあり今あれども老人まれに往古を記憶のあるより東南此儀草のあらし近も荒たる海面なれ
ありしるべし土俵のに碑ハ其むかし卒所深川のあるより海面なりしに今の其去山ハ仲より入律の
船の目的あるくあり〳〵とを仍て其老人の云ハ本所川より須田村のあるを限をとし南のうしろ
寺島柳島牛島大島猪江永代島なと称してむかし海面なりしとなるとするハ考れり

駒形堂　駒形町の西の岸ハあり往古ハ此所ハ儀草寺の總門あるしといふ
其頃ハ左右並木うえ楊花枝株を栽うへ春時ハ殊更あるめも深うるを寛永二十年の本尊
印卒東めうとなる書ハ駒形堂の近辺並木の楊花燦爛たるよしをもろとり
馬頭観音ハ儀草寺縁起ハ天慶五年安房守平公雅俊草寺観音
堂造営の時此堂宇も建立ありしを記とり
駒形堂と唱へ此名も　此堂の傍ハ儀草寺領内殺生禁断の碑あり
まさられハ因おこる

禁殺碑　武蔵之州浅草之川遠出乎源近注干海大悲薩埵
現像垂跡洋洋如在昭昭而著其為霊境亦已尚矣
然恣事釣漁矢傷水族寃苦之惨不勝哀愍腥臭之
穢固可厭惡伏惟霊刹數回祿蓋以大悲為此有
所不安也幸遇今時丕業洪運仁慧
四海深重物命禮崇三宝旁興寺宇於是去歳闔寺
堂舎修治補葺猶如新成因立制令嚴戒殺生乃以
南自諏訪町北至聖天岸十町余計為界嗚呼盛哉
好生之大德種福之勝業一在干斯人主之
天恩意足仰而望菩薩之観心可従而知區區愚哀
感仰有餘乃為銘曰　以我則乖　以観則圓
維斯一心　即具三千　詎忍殘殺　不知哀憐
鱗介異類　好惡同然　畏殺於後　思戒於前
營生嗜味　逮禍取愆　魚鼈無慶　教化所及
文明遇時　慈悲如天　網罟作禁　弊習能悛
豈但物命　因慈得全
元祿第六歳次昭陽作噩春三月
武州豊島郡金龍山浅草寺權僧正宣存誌

三島明神社　駒形町の西二丁ばかり小あり祭神大山祇命一座（伊豫の國風土記に大山）
積ふく土人伝云往古伊野坪某卒國豫州の沈より此武蔵國へ赴くの海上
ふく風波の難小逢仍卒國一宮の御神小祈り奉りしに恙なく着岸
せしハ神恩を報奉らむと乃弟宅の地小勧請あり〳〵由昔ハ今宮坂卒小あり
を元祿年中今の地へ遷さる　其旧地東叡山の東の麓根岸村小あり　祭礼ハ毎歳五月十五日なり
清水稲荷社　駒形町小あり往古嘉兼年中弘法大師東國遊化のとき
此國へ入ぬ〳〵須霊告小よりて如意宝珠を神躰とし稲荷の勧請した
まふとそ　其地より清泉涌出故小清水の名あり其後苦中感應寺の法華の勧請と
あり〳〵彼寺改宗の後東叡山末となり別當を奴行院といふ旧地ハ東叡山の西のうしろ
あり之寒松院構のうちとなる今清水門と号るハ是の頃三島明神と
共小この地小うつされうり按るに元祿二年冠松の仁戸熱鹿まとなる草紙小谷中稲荷清水今小移せ

すとあれハえ禄の頃まくハ其清水凝然うとあつしゑ〻む今此のさうり護国院へ又江戸名所記の説
行道山発畑と称まる此の苔合より流出つる清水あり云〻

小弘法大師東国遊化の御武蔵国まくひとつの小坂ふ東叡山西の禁麓清水門の坂是なりといふ

あ〻須老女の水桶を戴て行あり大師彼の水を乞なまゝ時老女の云く此辺り
水乏く遠く是を汲由まうしられい大師憐を獨鉢を以く加持したまひ是ハ
其所小清泉涌出と其傍小當社を勧請しあひなるといふ

諏訪明神社　同所設楽町小あり祭神ハ信州の諏訪小同じく健御名方命
なる社の権輿ハ至て久遠なりて来由等詳なるべし

櫛寺　同所黒船町小あり俗云宗うて増上寺小屬す此中山正覚寺と號す
本尊阿弥陀如来ハ恵心僧都の作なりて冥山ハ観智国師なり往古當寺小
名ある大木の櫛ありし故小号とせりしと

石清水正八幡宮　大倉前小あり元禄五年　石命小仍て石清水正八幡宮を
勧請せり　昔ハ文殊院の八幡と称し高野山行人流の僧住職あり〻〻其地を改られ石清水正八幡宮を勧請せり　別當を大護院と号し雄
徳山と云寛山幸侶法印なり護摩堂の本尊ハ五大明王なりて運慶の作なり

三島明神社

諏訪明神社

閻魔堂　八幡宮より南の方弐三丁を隔つ称光山長延寺と号し本尊閻羅王
の運慶の作まつく其丈壹丈六尺あり額小閻王殿とあるは延享年中末聘韓
人の筆なり當寺は慈覺大師草創ありく疇昔は野國小あるを文永年
中此地へ遷すとも　或説に昔の震る冥小あるを國初の頃る賓所へ　毎歳正月七月十六日祭れ
うされ後復いまの地へ移るとなり
諸群集す

葉衣婆像　運慶の作なりて本尊閻王と同本なるところ　化馬地蔵尊　聖徳太子の作昔の紀の那智山小あるを昔併去と俳徊せり女あり是を化度せんとて小
ちに化しく彼女を佛道小　光山觀世音　光山院深く觀音薩埵を信しあり其縁の普門品大悲
帰入せりあるいとうん　の大陀羅尼等の孔巻をりつく大悲の儀を作りせあるは
佛眼上人をして慈眼供養せりめ法皇ろ〻〻〻親音の寺五畿三十三所観音巡れ順禮あるとも員
せりあるいそう像あり故あつて東叡山ろりを小移し奉ろ是則及佛の権惠ろり学ぶま境内よ文永十一年の
古墳

祇園社　同所閻魔堂の南小隣ろ當社牛頭天王い天暦年中の鎮座ありとも
大倉前の總鎮守小して別當を大田寺と号し
十王堂　境内小あり慶長十八年又寛文御建立あるとも中そい地蔵菩薩うと左右小冥府十三
の像を安置せり

銀杏八幡宮　同所福井町よあり傳く云當社い永美六年源頼義朝臣同

国立公文書館
National Archives of Japan

義家朝臣奥州向の時ふかく至りたまふ河上より銀杏木の流れ来る
あり則義家公手にとり地より出て誓て曰朝敵退治勝利あらば此樹すこやか
枝葉を栄へしとのり遂に甚軍勝利ありて凱陣の時ふたたびとりかへりぬる
枝葉栄々として八幡宮を勧請しひとしく甚昔八幡塚と唱へりとかや神木
の銀杏樹の延享二年の秋暴風に吹折て今はふかく其枯株を存せり

## 第六天神社

浅草橋の外より昔八大倉前森田町ふかくし延享保に年火
災の後今の地に移る祭神八面足尊惶根尊なり天神七代の神なり祭礼毎歳六月六日なり

## 篠塚稲荷社

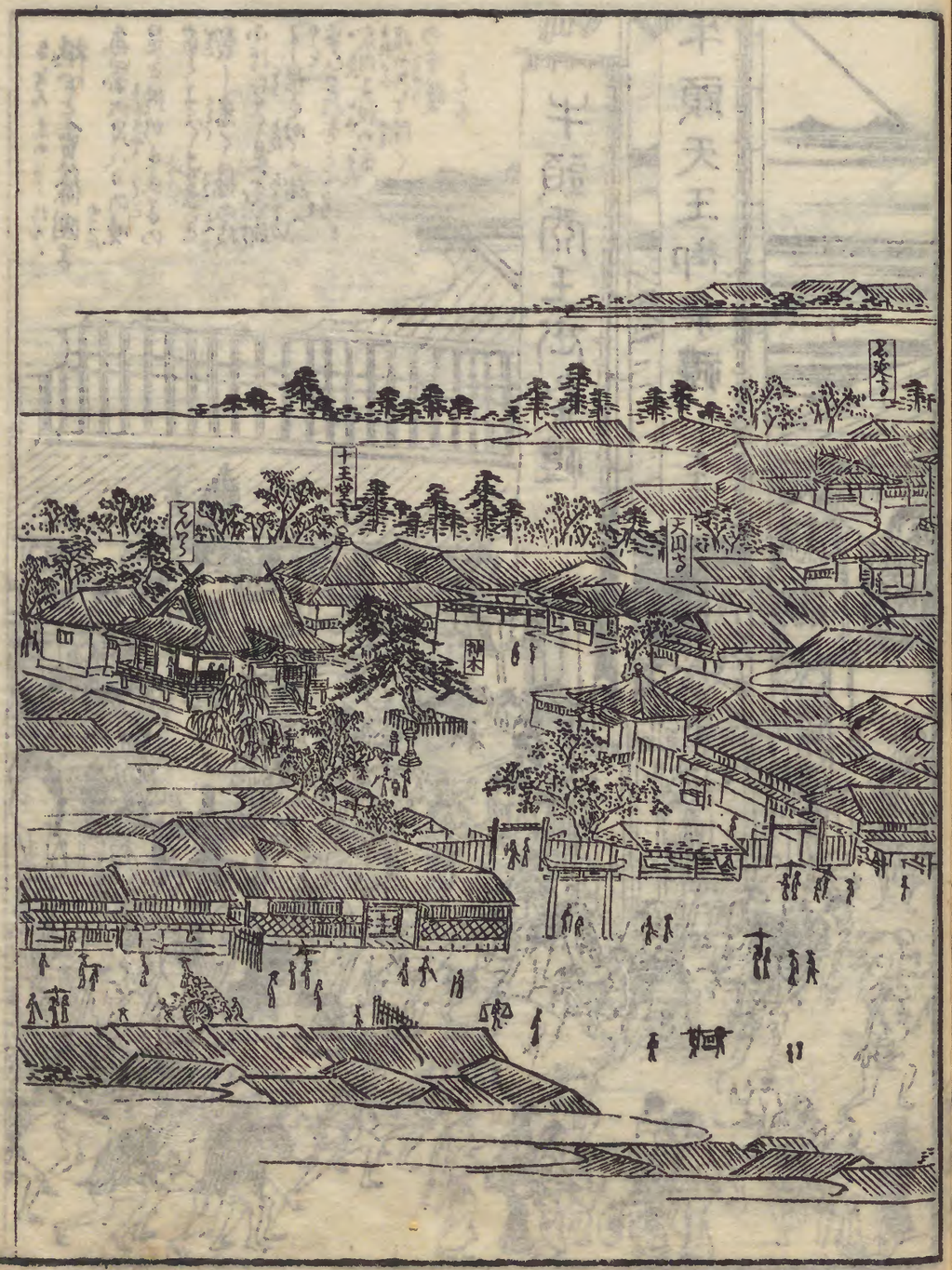
當地の旧社なり 社古比丘尼茅葺の堂と云よし 社伝ふ云
作り曲れ入道して社の例に庵室と結ひて住せり 西玉義院に為 裔孫なりと云の

## 多越里

多越明神の辺より大倉家の辺までといへり小倉家分限帳に高氷若狭殿つ
江戸多越村の内と領するこし 記せり

竟恵北国紀行に文明十八年十二月廿日隅田河の辺を越といへる海村に長流といへる箱いり住宅
に美やかりして雨林にあらあらそる金光寺に宿り同十九年元日に

おさまるる世をかけくや荒世根のすゑと云に孫ふ甚孫をらん　竟恵



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

暮ふくりゆくといそくにふくれも寢ふ行鳥越乃里　道真准后

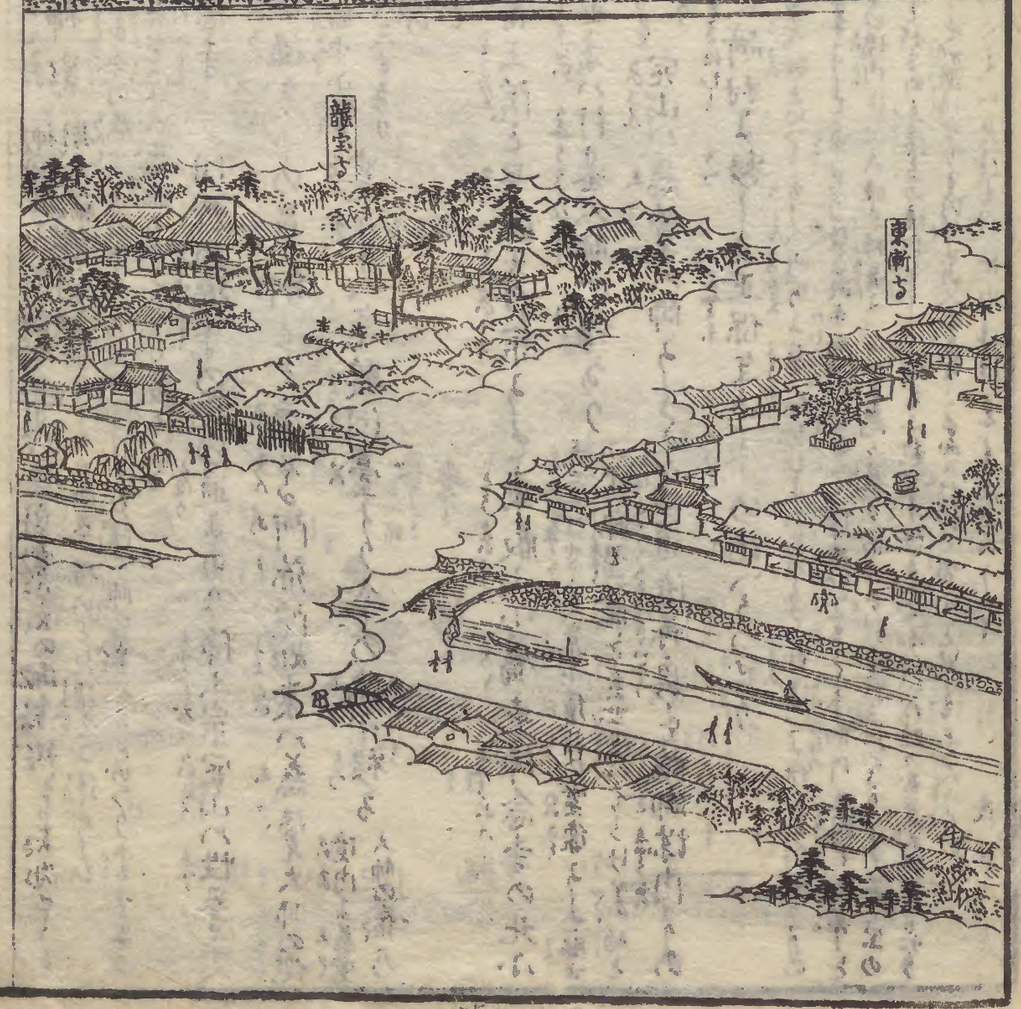
鳥越明神社　元鳥越町よあり山邊の産土神とす奈神日本武尊相殿天兒屋根命なり　昔ハ第六天神塾田明神を合せく鳥越三所明神と号けしり正保二年此地公用のため召上られ三宮るゝ智地をひろりふ社の地ちをを殘さるその頃より塾田ハ三宮の地へうつし第六天ハ表田町へうつりとゝ　當社ハ最古跡なれとも舊記等散失して勸請の年曆未由等詳ならすとゝ　奈禮ハ滿年六月九日なり

東光山西福寺　良雲院と号ス　良雲院殿御尊骸を安置ふ墓　御墓所あり　鳥越明神より三町ばかり東の方ふあり江戸淨宗四ヶ寺の隨一なり本尊阿弥陀如来ハ安阿弥の作なり　三加ようろ冥山を真蓮社貞譽了傳上人と号ス　天和八年九月廿七日ふ寂ス　遠加屋ゝ渕戦死の迷魂得脱の師なり　迷魂得脱の功ハ武文の戦功ふ等しくゝ其功を永世ふ傳へとゝ　神祖　松平の御称号并山号等をあゝ往古三加ふありしを慶長の頃　台命ふ依て当國駿河臺ふ移され又寛永十五年今の所ふて地をあふ一基中法幢を立檀林小准を

方丈
庫理
方丈

西福寺
塔中
中塔

新宿場
浄念寺
東漸寺
龍寶寺




国立公文書館
National Archives of Japan

東照大権現宮神影　神祖英よ

江島辨財天祠　當寺の傍宗禮のとき諸人よ伴てつむ

化用山常照院浄念寺　因所西福寺の北の通よあり浄土宗冥山ハ性誉上人

露休和尚の記て永禄年中の草創とそ奉る阿弥陀如来ハ慈覚大師の他

作り収の尊像と称と脇中小鑿　寛永十二年駿河臺より今の地小移る

鋸等を入収む甚長二尺三寸あり　境内ハ慈覚大師の作乃

観音菩薩の大神等を安置せ

浅唐の大神等を安置せ

正保山東漸寺　醫王院と号し天台宗にて東叡山小屬也浄念寺の北小

あり本尊藥師如来ハ行基大師の作なり　書写性空上人常小獲持の霊像にて脇士

称と寄願ある者ハ祈るそ　冥山ハ慈覚大師にて　小十二神ハ弘の像と並世貸ハ藥師と

祈願を供するの所なり　谷田道俗再興と始御堂内にあ

てしを後小神田芝崎村よ移し又正保年中今の地小移せり

手向野　寛文の比戸田茂睡といふる者人此所よ草庵をむすび住し伊勢物語

天和二年十八軒ありと本所よ此手向野小茶屋傍よ神を立て手向所と彫て和歌を

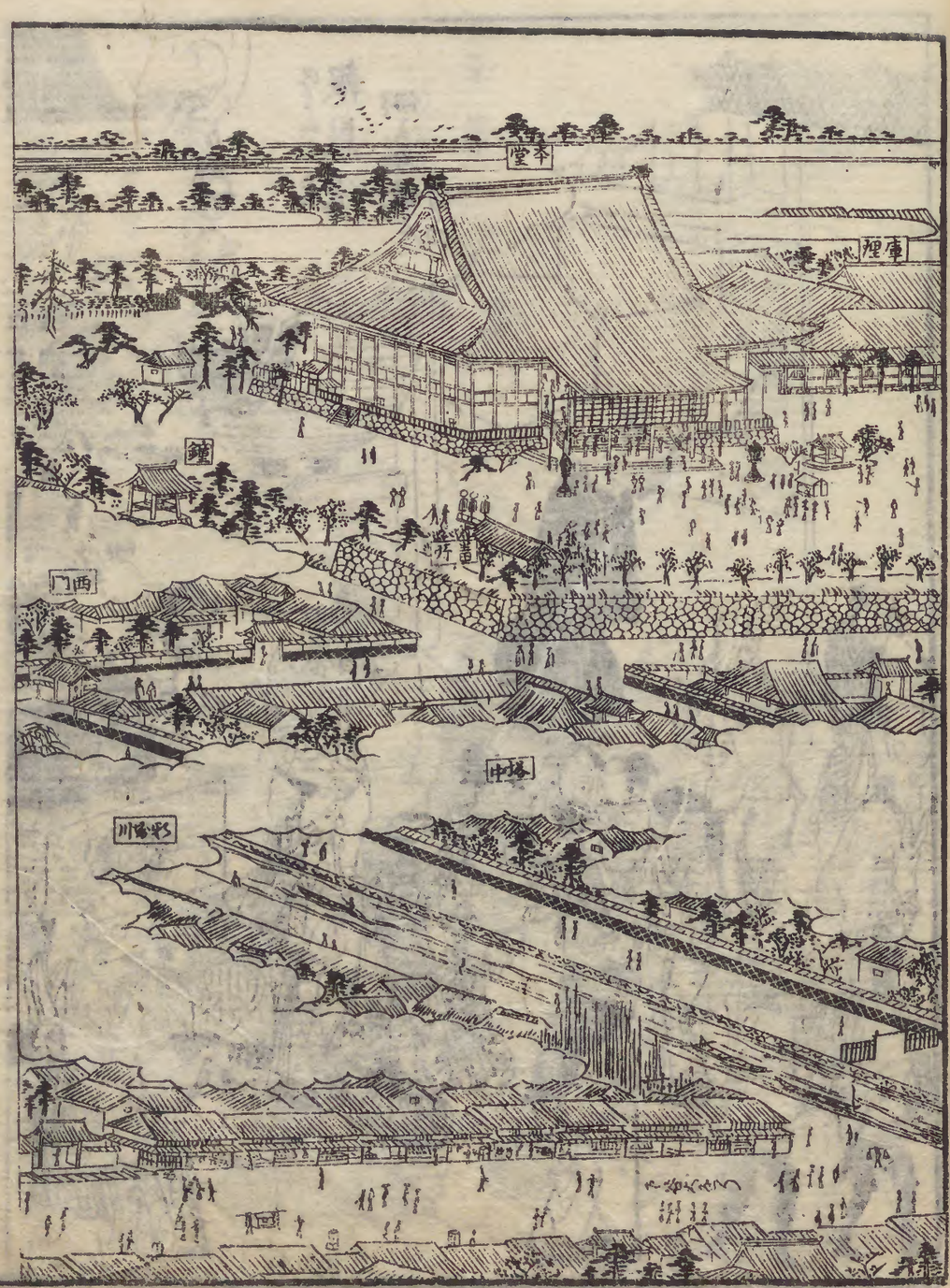
記也其比ハ田畑会繁るの境内ハ茂睡史婦並て子伊勢物語の墓さへありしと

一本ふ[illegible]ハ[illegible]と[illegible]町赤陽るの境内あるよ諸書小載せ赤陽るあるも今ハ[illegible]

或人云武蔵鐙ハ奥州道中ハ[illegible]て開墾場なりしを後[illegible]某の人番所を[illegible]

因い者若り[illegible]ハ[illegible]絶ぬ浅法[illegible]

茂睡


本堂
庫理
鐘
西門
中場
川場

其二
裏門
玄関
方丈
内玄関
書院
鐘
西門
中場

国立公文書館
National Archives of Japan

報恩寺

東本願寺

新堀端大通小あり冥山教如上人其先本山の住職たりしを豊臣家のをり〳〵ひとゝせ順如上人教如上人の命令を本寺の門跡小定めらるゝ教如上人を故ありて退隠せしめ裏屋舗小建れしを此故より東門跡裏方に

神祖賞ふ　召出され冥祖上人の真影を御寄附あり六条室町の未だ

新より御堂屋舗殿下〳〵賜る夫より後東西とはかる其後江戸より未寺建立あり表中

一宇宗建〳〵京都よりの輪番所とあり江戸中の門徒を勧化す　依て則神田あく寺地を拝領す

其後元和元年七月廿日有行と号詰の人より物を許せ　冥山忌　毎年十月廿二日より同廿八日まゝの間續法説法等あり

砌旅館とゝのゝ

五月　毎年七月廿日有行と号詰の人より物を許せ　冥山忌　毎年十月廿二日より同廿八日まゝの間續法説法等あり

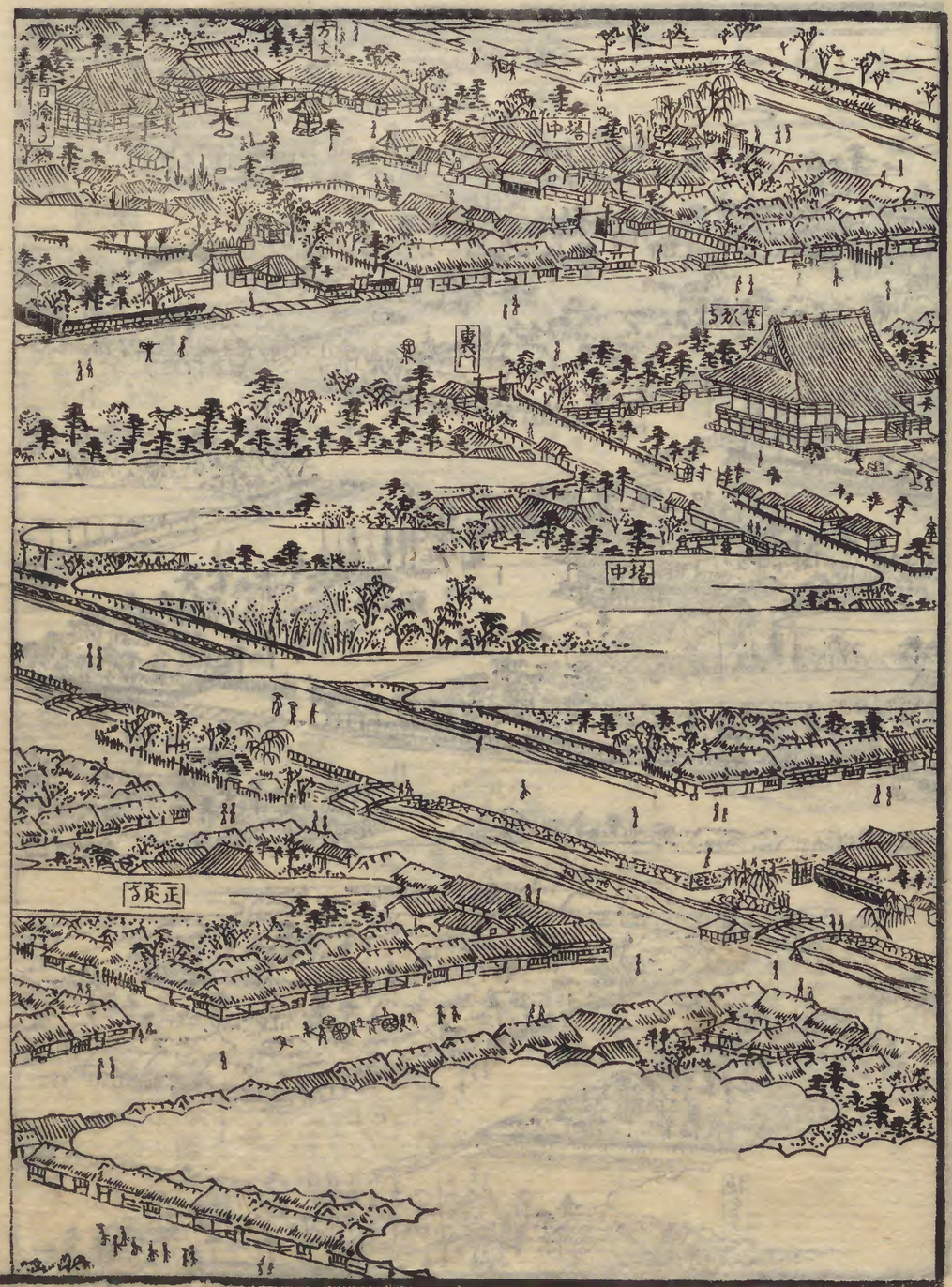
門徒の貴賤群参せり　倍小是を御講と称す一ゝ報恩備ともいふものあらず

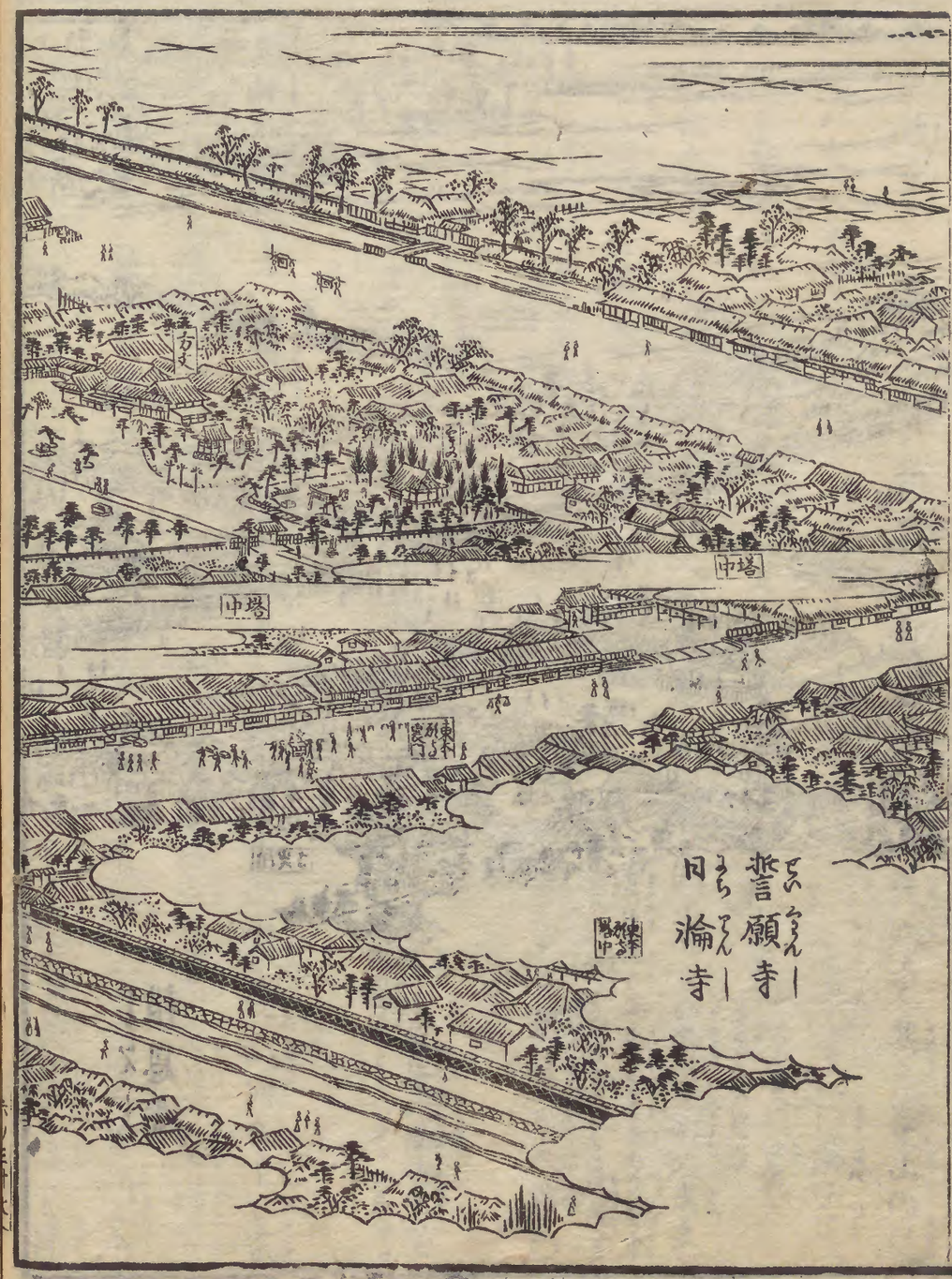
高龍山報恩寺　謝徳院と号し東本願寺の東小隣る一向宗

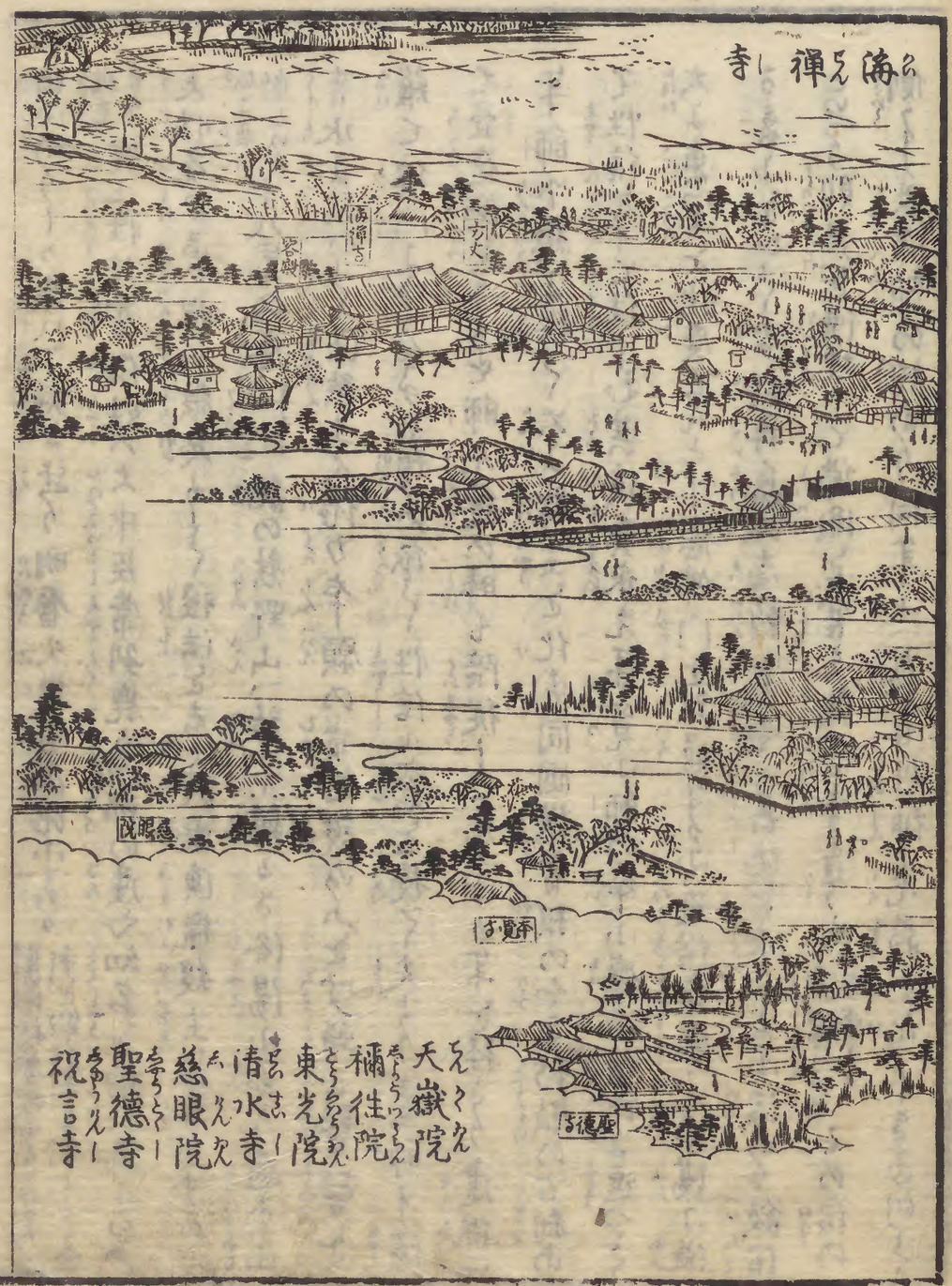
祖上人の遺跡二十四輩所の随一なり当寺は徳川豊田の左横曽

根より有へ数十世後結城の城主七郎左衛門晴朝の臣安賀谷何某

といふる者の為より寺領田宅を寄進し終〳〵武州より移し様


中塔
裏門
中塔
正定寺


中塔
中塔
誓願寺
日淪寺




天嶽院
補往院
東光院
清水寺
慈眼院
聖徳寺
祝言寺

田小あり〻の後八丁堀より辻り明暦火後今の地小ゐる舊地樓曾根ふとむる所の寺を軍光寺と号し〻今猶存ち冥山性信房俗姓ハ大中臣常州鹿島郡の産ゑ幼名を與四郎とい小天性多力勇悍心狼戾ゆ〻〻禮法を志ゝん唯漁獵殺生を事とするゑ

悪丑 十八歳の春 紀の然野山へ詣〻歸るさ洛陽小ゐり適東山吉水より弦ひ〻〻法然上人他力本願の旨を說ゆゑを聞ゆ頭より鬢髮を薙て佛門ゆいんるを願ゆ依〻〻性信と名を授く夫より鸞師ゆ隨て晝夜側をさ〻と師左遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二年師ゆ總より往〻〻大より群生を化せと同國横曾根のゆより朽敗の古刹あ

え文三年 て性信を〻て住〻む其後負永元年竟小師の命小應〻彼地より逗つ〻〻大より東冥を化度ちんと〻念佛門を弘通するゆ道俗充滿〻〻場小溢る爲小をひ〻〻古刹再興の志願を企〻其地を求り〻こゆ沼あり飯沼と云り則是を堙埋〻て佛閣を營〻報恩寺と号し側り天満神の初あり同年十一月七日此神老翁と化〻〻るゆ〻〻

此時紫の戸帳一重を寄送の料る 又天福元年正月十日此神何某ゆ夢小告〻〻曰〻是より後永く師資の禮讓を〻て御ゆ洗の鯉魚を報恩寺より贈るへ〻と云〻依鯉魚二喉を捕て師小贈る師も又是を謝ちんゆ乃神前小鏡餅二枚を供と 此時蒔蒔の例今ゆ慈慢ゆ毎歲正月十日飯沼天神の御ゆ洗の魚二喉を報恩寺より性信房のゆ供と也ゆ又報恩寺より返礼と〻て境餅を供と則彼地ゆ天満宮の神前ゆ供〻〻 同廿五日初連年を奥行〻後境餅を冥礼ゆ〻〻ゆを回例とす

建長二年の頃性信夢ゆ見るゆ

あ〻て奥州山中ゆ自過去生の枯骨成得〻〻

画上詳 竟建治元年七月十七日下總より上京ひ〻〻寂を示と他壽八十九 上冥山付の要を摘て記と

寺寶 親鸞上人壽像 右ゆ拂ると持〻たゆ珠数を持嘉貞元年性信房洛陽小ゐり東國御家院ゆ化ち〻ゆを供〻〻ものゑ自

彫刻あり〻て性信ゆあ〻られ〻 五色佛舍利 本尊名號 十字の名号ゆ〻〻ゆ独上人の

六十三歳の影像ゆ〻〻と也 同九字名號 同宗祖上人の真蹟ゆ〻て横曾根同光寺の

軸ゆ 同宗祖上人の真蹟ゆ〻 珠數一連 親鸞上人より性信房ゆ與ゆ 性信房過去生骨 夢想ゆ依〻〻奥州土湯山中ゆ自過去生の枯骨ゆ

誕生椋の實の念珠ゆ 親鸞上人の真蹟ゆ〻〻貞永元年 教行信證一部六卷 年上人歸洛のゑ性信房ゆ〻〻屬あり〻〻と也今 蛇反鈔 長六寸ゆ彼平の作ゆ又ハ行敏の作ゆ〻〻性信房秘書當寺ゆ伝〻〻あり 根の古院ゆ住ゆ頃其ゆ悪龍すひて禍ゆ〻〻ゆ害ゆ〻〻ゆ性信是ゆ退〻んとゆ〻〻空く年月をゆ〻〻ゆ

熟睡ゆ時ゆ池中ゆ悪龍生〻〻彼僧を呑ひとせゆ〻〻ゆ懷中ゆ入す鈔を生〻〻彼悪龍を防〻〻又

[illegible]

田島山誓願寺　浄土宗　戸四ツ寺の一

室町に冠山の見蓮社東蓮上人始め牽る弥陀如来の安阿弥の作なり

世に歯吹如来と称す伝云往古建仁三年十二月廿八日元祖円光大師室小在して集會念佛の時金像の弥陀尊佛堂の扉障小映現し頂更りて没し大師感嘆して乃佛に安阿弥に命じて彼尊容を写し御長三尺小彫刻し自冠眼あるを常に持念し給ふ因三年十月十九日彼の像恍然として口を開き音を發し親しく大師に十念を授け小示来面に遂小啓歯微露し息を吹詰を發するの状に髣髴時の人称して歯吹の尊像と云（明遍僧都の伝状等小）

大師の滅後勢観坊源智上人（縁起に小松内府重盛公の帰依備中守平朝臣師盛の息なりと又幡随意上人行化伝に源智上人は係陽智恩寺二世なりとあり）貞應のもつめ高野山に常行念佛の道場を創起し蓮華三昧院と号し彼の像を傳持して本尊と竟に安永の末故ありて小移し奉るとぞ

誉寺往昔相州小田原にあり天正十八年　台命に依て當國に

ほされ元禄元年牽根町壹丁目にとどまり寺地を賜ふ又慶長のころ

神田須田町に移され明暦の火後浅草に移し寺地を賜ふ元禄中用誉龍

岳上人國命を蒙て常紫衣を賜る亦末に降檀林の中に住職す則

當寺の規模とす

神田山日輪寺　芝崎道場と号す誓願寺の北の方にあり本尊阿弥陀

如来は安阿弥の作なり誉寺時宗にて當國弘法最初の道場なり相模厚木

清浄光寺に属す　冠山真教坊は一遍上人第二世にて往古諸國遊化の頃当國豊

嶋郡芝崎村に来り小ひろの義祠あり（神田明神是なり今の神田橋御門の内其の旧舊名を芝崎村といふ）

傍に一宇の草庵を結び芝崎道場と号す（當寺の雄畫）其後あまくの星霜を
経て慶長年中神田明神八幡宮臺へ迂され當寺は柳原のほとゝに地を
賜ふ又明暦の頃今の地に移る（寺伝云く往古より由緒ありて今も開年九月十五日神田明神祭禮執行の時は當寺より上人以下衆僧参社頭にあつて誦経念佛善種くの後法ありて後神輿を渡し仏を當寺住職其門人八幡宮御連平の御連衆）
光明山天嶽院　遍照寺と号す日輪寺の西に隣る浄社の法嵐にして天正
年中善空上人草創せ光山八圓蓮社滿譽上人と号す卒尊手嶋観世
音菩薩は唐佛にして順德帝建保年中相州鎌倉鶴岡の社僧良真傷都
入宋の時育王山能仁寺より將来せる霊像なりしを其後豊左岡の幕下
津田勝重とゆる者此像を感得せ息元重伊賀國手島と云所に移る須此
霊像の告によりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ依人民伏し
て島殿と称せ其後元重當國に越さゝ須故あり當寺に收む則ち
内に島元重の墳墓あり當寺舊は浅草橋のうちにありしに明暦
四年の後此地に移る

一心山彌陀院　同西に隣る捨世寺と号せ浄土宗にして本尊阿弥陀
如来は丈六の座像にして恵心僧都の作なり脇に観音勢至の二菩薩を
安置す冠山は幡蓮社白譽称往上人（姓は飯田氏武の野州宇津宮の人なり）當寺昔は小岡原
にありしに慶長年中當國に移されし陽島に地を賜ふ後復今の地に
引き移り捨世一流常行念佛の道場にして殊勝なり（當寺は山光大師月影の御影あり）
藥王山東光院　同西に隣る醫王寺と号せ天台にして東叡山に屬す本
尊溜陽光如来の像は佛工春日の作なり伝云慈覚大師當寺を草創
ありしとそ往古は顯密二教ともに弘まりて台宗一百八箇寺の總本寺たり
中古左内道灌此霊像を崇敬して江城の鬼門に置又其後慶長年中日光
御門主一品尊敬法親王山門より動寺の松林坊賢海法印に仰て再興せ
む
神祖其院主に命ありて江城長久の御祈禱とて正五九月に大般若経轉
讀せしめらる（此例今に至つて慶長の頃近に常盤橋の北にあり其後小傳馬町へ移る其地
を今も称茶師堂と云草の地に寺を移せり明暦四年の後なり）

建長二年の秋
性信坊爰想ふ
こんぜんぜしやうの過去
生の枯骨の不在を
さう奥州信夫郡
土湯山より此の一の
猟人あり師云く
此松わゝ我過去生の
枯骨あり汝
是を埋べし
得させへと
猟人云く
我業を
みされハ
明日の糧
なし
貧ハ
依て性
信坊猟者の

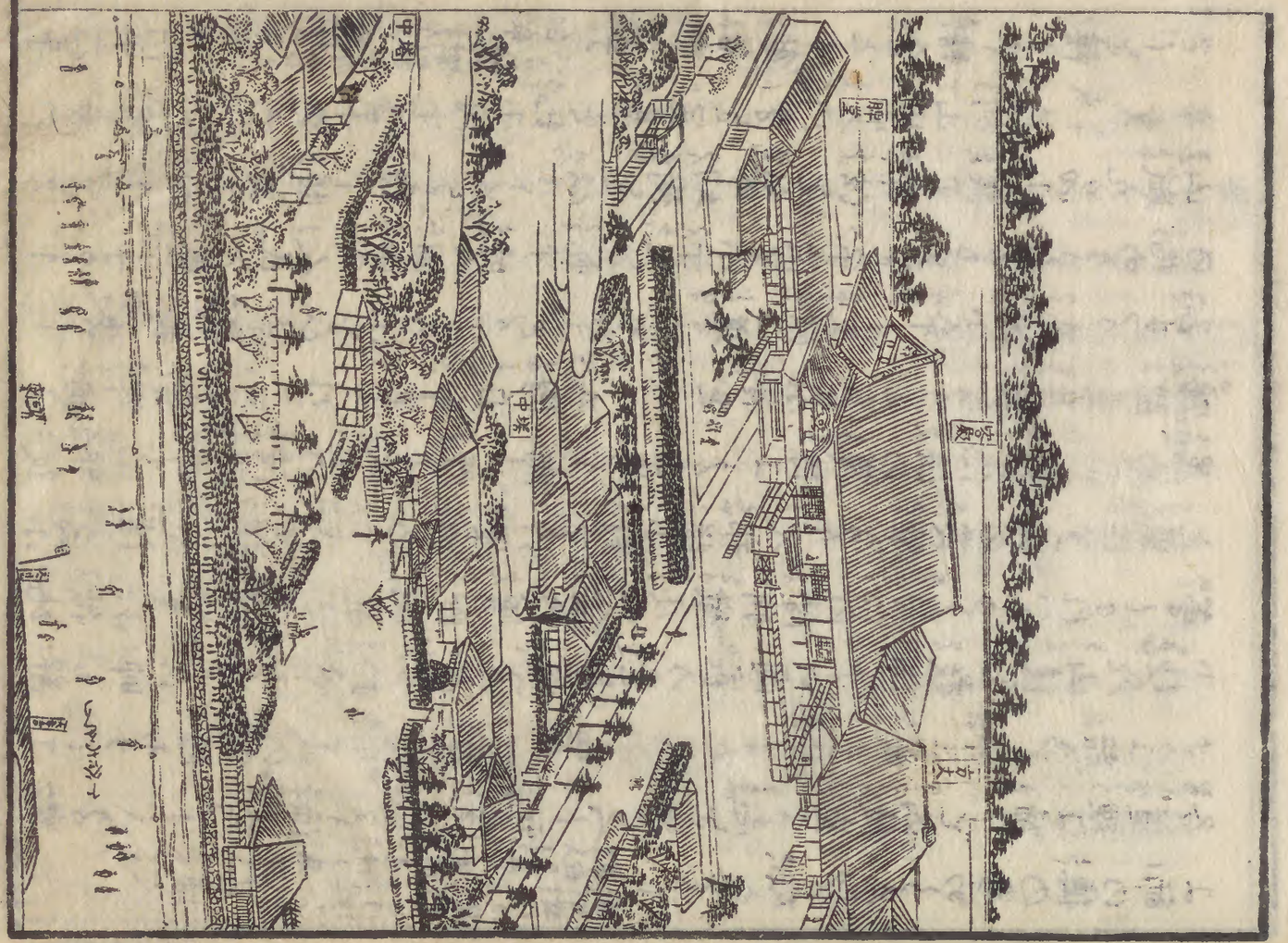
特ところの
弓箭をとりて
石上より投すれハ
其箭をのれと
發して一鹿を射
師則是をあらハ
猟人驚て其所
のこさるを借り来り
松ハを穿ち既にして
枯骨を得られ性
信坊歓喜踊躍
貧よ其地を掘て
一の精金を得
号て法得寺
といへり

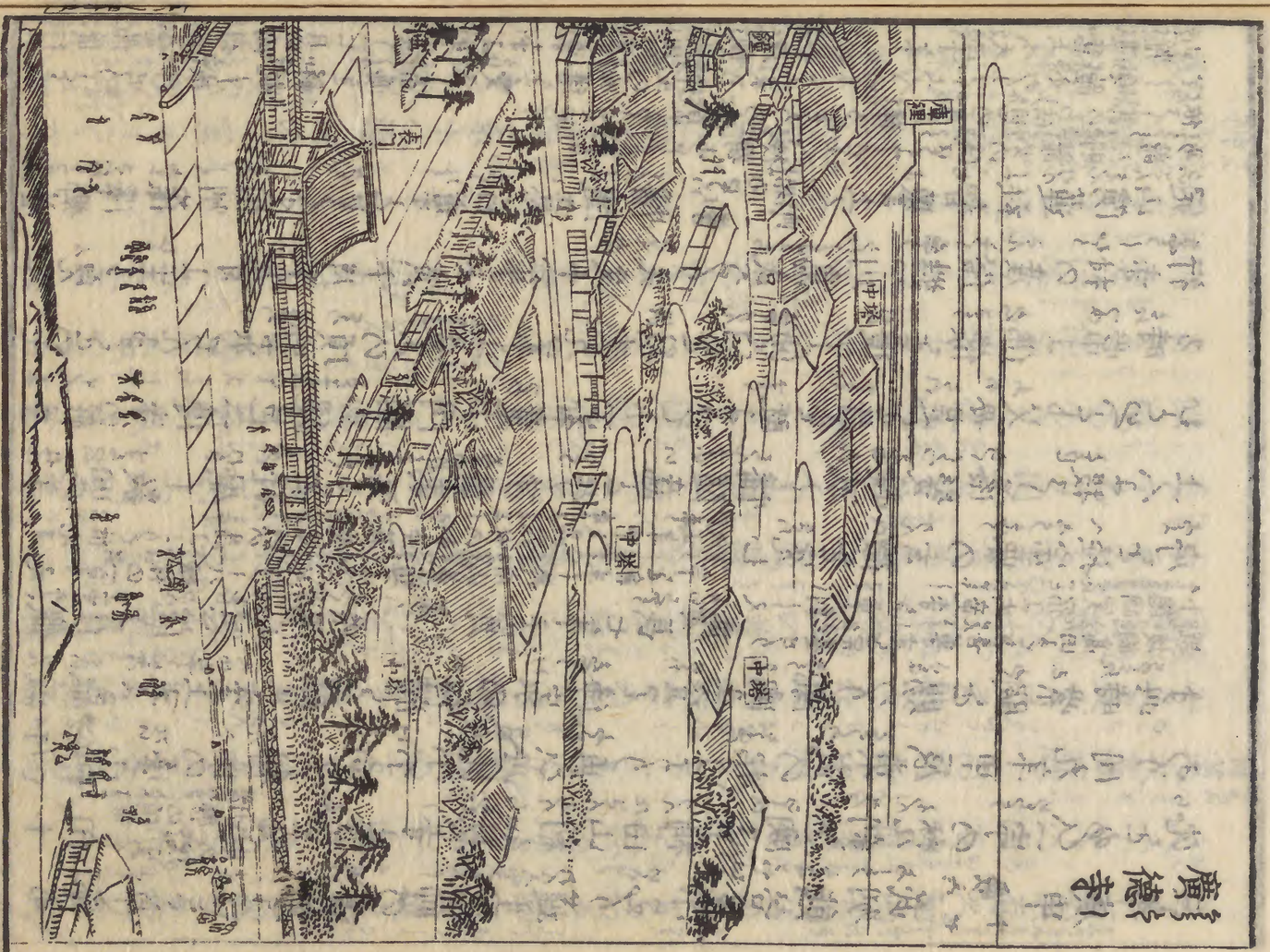
大雄山海禪寺　同所新堀の小川を隔て西の方よりあり臨済寺派の禪宗
にして江戸四箇寺の一なり往古平親王將門總州相馬郡よりあらく草創
する所の佛刹なりなれとも門亡るの後年を歴て荒廢よりをひされ〻〻
鬼の栖となりしを慶長の頃覺印和尚再興して寺を江府陽島の北小
移せり其頃
神祖和尚の道德を冥し〻尊敬あらせられし〻ゆえ後に寺院も輪奐と
して宗流隆盛なり明暦回禄の後今の
清水寺観世音菩薩　海禪寺の向の新堀端にあり黄の浅草橋の内にあ
るを明暦火後今の地に移さるる寺を江北山清水寺と号し天長年中
慈覺大師ひとつの勝地を求め天台法流の一院を建立ありしかく
一刀三禮をもて千手大悲の像を作り安置せしと其昔佛閣甍を
ならべ巍々たりしに年去年来て星霜を歴るに堂塔大に破壞せ
しを文禄年間慶圓法印とのいる沙門霊告夢得て叡山正覺坊の探題

寡慾僧正と相謀て堂宇を修營し昔に復せしめ
上宮太子堂　同所北を下なり坤の方にあり寺を用明山聖德寺と号す
浄土宗にして本尊聖德太子像は御自作なりとの
天皇御悩の時太子神明佛陀に祈誓し給ふ孝養の御影と称
平愈給ふ御年十六歳の御影像なりとも云往古御父用明
上人念佛弘通の為此霊像を守り奉て冥東に坐す根澤に一宇の
精舍を建立せ　又八房に作る御堂内吹上と称とハ其間也
祐和尚中興し台宗を改めて浄家とし慶長の頃馬喰町馬場の辺小
移せり明暦の後今の地に引き移せり當寺門の内に地藏尊の石像あ
る　相州一澤木食彈誓上人の作にして當山十七世の住僧霊告夢得て土中を穿ち此地を掘る
の御首を得て仏像に刻み全身を神造とし其背面に件の旨趣を鐫す
除厄地蔵堂　同所北の方浄土宗天狗山慈眼院に安置せり四十
二年の御時除厄の為自彫刻し奉る霊像なりと云
明暦回禄の時本尊を失ひ依住僧德誉上人深く是を悲み覺に霊告を
得て再び忍び難の地の中島に本尊を感得し安置せりと
萬年山視言寺　同所南の方通を隔て西南の方にあり曹洞派の禪宗

よりて良山存久和尚冠山より往古の戸澤の辺祝言村とゝのゝよりて天
文二十年の頃を因道灌草創を天正の頃山号を賜ひ又此地に迄さる
日蓮大菩薩　同所新寺町より半丁ばかり西南の方にあり安立山長遠寺
小安置す伝云往古花洛南禅寺の普門禅師夢年日天子を信弱し
一朝日輪の中に二菩薩の尊影を拜を依て自筆をとゝく親是を摸
し奉らし霊告ありしく弘長元年辛酉六月遠に実東より豆州伊
東小室より同六日日蓮上人に謁し彼二尊の慈眼を乞求む則上人冠眼
供羅あんしく花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ひ奴り大士
自肖像を造ゝ禅師のもとに贈らる　禅師帰寂の後京　当寺日蓮大士の像是なり
師要法寺より〳〵又妙栄寺に安置ちゝ奴あんしく文禄三年の
頃当寺に迂せり
神岡山幡隨意院　新知恩寺と号す浄家十八檀林の一室なり本堂の左に傍に碑
尊阿弥陀如来は安阿弥の作なり　妙龍水

山幡隨意上人天正十年の秋越後國高田の善導寺に至り一七日の間列時念仏飛行あり
〳〵頃龍女あり〳〵上人のもとに来り浄土の麻譜を受し畜生を解脱し成仏せしとゝ
依て其の法恩のために釋ゝとゝろの清泉あり〳〵
妙龍は則龍女の法号にて上人授與あり〳〵
冠山傳蓮社智嚴言上人　俗の号は誉　幡隨意白導と号す相州藤澤郷善
行寺村の産俗姓は川島氏なり天文十一年壬寅十月十五日に生る兒化
る時常に佛像を禮〳〵沙門を敬す九歳に及ぶの頃出家ちんりをのそ
むといへども父母是を許さを既にして十一歳竟小同國玉縄邑二傳寺の範誉
上人に投ゝ落髪授戒〳〵幡隨意と号す爾来所〳〵を経歴〳〵数回の年
序を経宗要の玄微を究む　天正年中上野館林の刺史蒔原康政の請に彼地に
一宇を創ゝ後南山善導寺と号す上人檀林の一なり又
戦後國高田に善導寺を完基せり　慶長七年壬寅　第六　俗陽知恩院に住職
す此時紫服を賜ゝ鳳闕に登ゝ浄家の秘蹟を講ゝ主上大に感感
あり同九年甲辰東武の招により再び此地に下向〳〵神田の草小墓し
地をめぐ一宇の梵刹を闢ゝ神田山新知恩寺と号す　松齡の頃近　化の陽あり同十
三年庚申　歳六十七　武州熊谷邑小ゝ蓮生法師の遺跡に小ゝ草庵あ

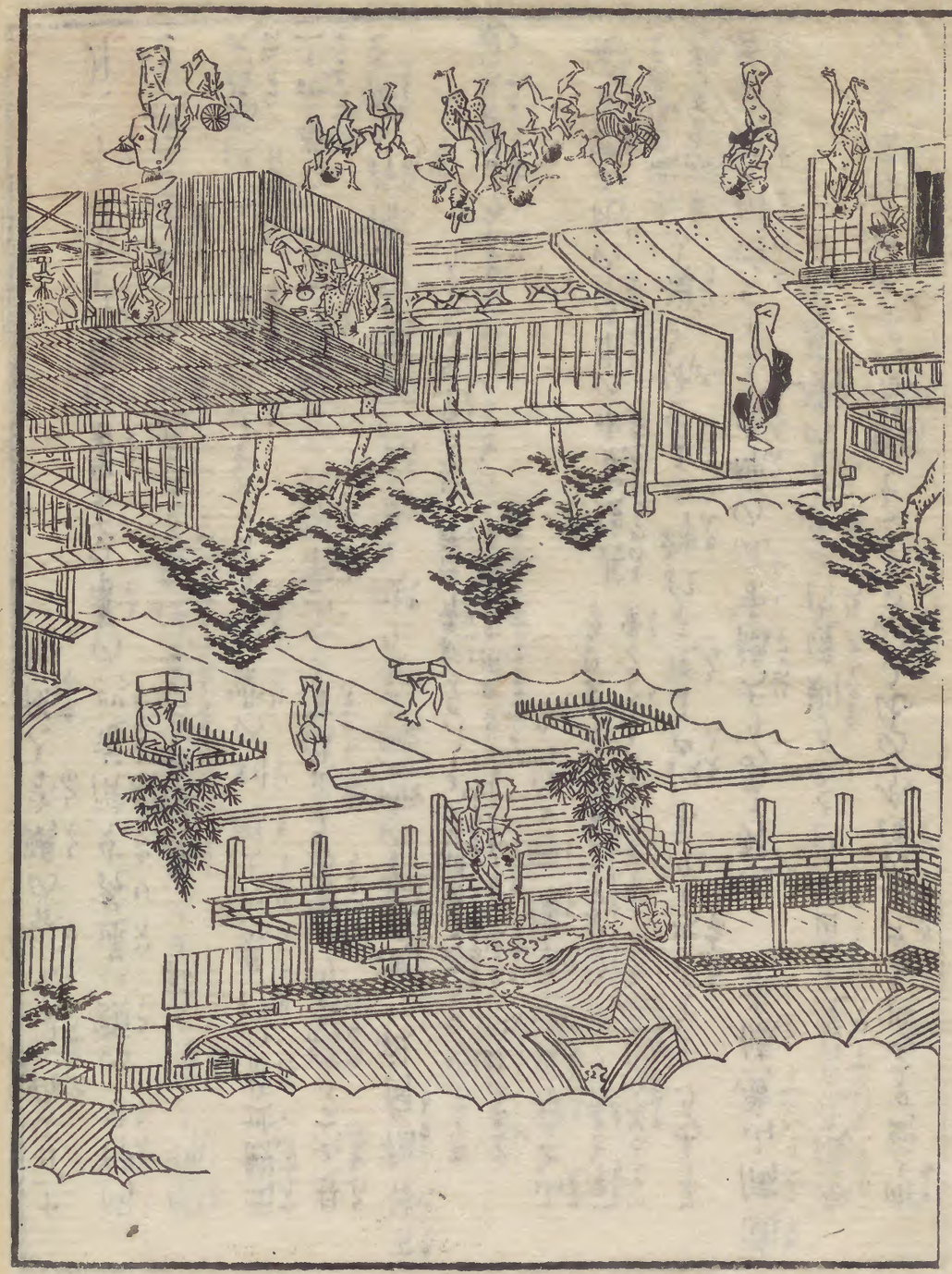


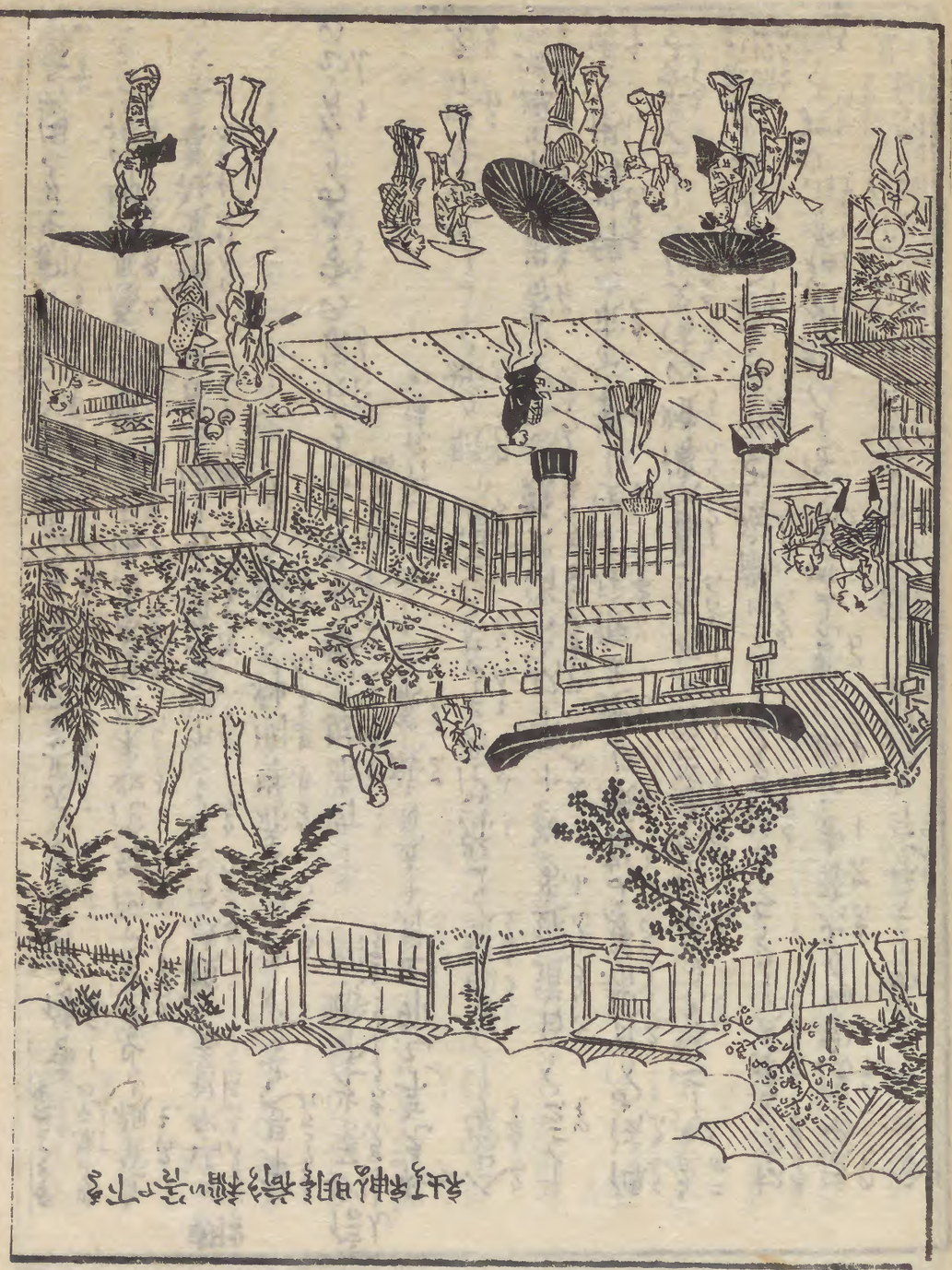




国立公文書館
National Archives of Japan

をしを轉〻〻精舍とし鉢谷寺と号く合掌はうりく金輝の裝束を同十六年
辛亥歳七十勢州山田小入門寺を冠基を始小同十八年癸巳歳七十二蠻夷の
凶賊九州小發し邪法を弘め幻術を以て人を惑し頗國を傾んとする
の兆めりされども曼を平治する小干戈を動す時ハ國中の人民を塵小するを
玉ふ〻高僧小命し正法を導しめむとすれども衆義一変し
幡隨意其器なりと真小尼也
大樹自命ぢられて云く吾軍國を
患ある時ハ必佛法の護持をうるとなり師ハ既を天下の法將なり〻〻邪徒
を退治すへ此の英雄なり又邪徒小對する小軍將の干戈を揮ひ敵陳を向小
等しくれハとも蜀江の陳羽織及ひ金の軍配團扇とを賜ひ急ぎ彼地
小勅して凶徒を教化ちめ國家の患を除へきの旨鈞命ありしかハ師も辭
するを語〻命を應し終を九州小ハ邪徒と宗義の對論ありしを
各道理を歸しと凶徒也を志をいるるし邪法を出る〻浄土門を入る實
を師の德のちめ〻志むなるへし
其後又

命令ようりめしとを梵宇を創立し観音寺と号す
後崎陽小ゐり大宵寺を開化竟を晩年ををひ紀州和平山を於て萬
私寺を建立しとを住せられを一日微疾を示を上足意天和尚
二世〻とを至り師の病床を訪ふ師大を喜ひ傳燈の法主たるへしと示を
傳法あり其諸弟を教誡し遂を寂床を吹し業を求め辭世の偈を書
しと云く白道運歩数十年以此消失難思術と書畢て筆を擲端坐
合掌しと高聲を弥陀のそるを唱へ眠の如くすと化を映小元
和元年乙卯正月十五日歳寿七十四 以上行化傳の要を摘
信州善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺といつる台宗の寺ありあり
葉是をうく寺内を赤城明神を鎮ゐり
朝日山永昌寺 願成院と号を下苔大通をあり浄土宗をを鎮蓮社尊誉上人
を冠祖とを本そる阿弥陀如来小運慶の作を観音小慈恵大師の作とを
世を除尼の〻〻 寺傳を云ふ寺小天正年間下苔長者其名今草創とを因所長者





国立公文書館
National Archives of Japan

所となるよあり也を元和の頃今の地より引うつしそ明暦二年丙申松浦家の
母儀永昌院再興あり也とあり則境内に長者の墳墓あり

圓満山廣德寺　同所にあり大德寺流の禪宗にて始相州小田原
にあり一を天正十九年江戸に遷され神田に地を賜ふ（事跡合考小昌
寺に足跡の沼地あり一を建立と其後遷り當寺昌永橋の内にあり）其後寛永の末今の地に遷る此
山を希叟宗芳禪師といふ
（當寺の總門の名匾の美筆にて是迄風光の難者多くこれを惜ふ一最畜亟の親
族とする呼あり詳に橘隨主人あり此る新奇疾話とある草紙に出たり）

下谷稲荷社　廣德寺の向ふ側にあり故に俗唱て廣德寺の稲荷と称せ
是大なる誤なり別當あり正法院といふ祭神は蒼稲魂命にて本地十一
面觀世音は行基大士彫刻の靈像なりとて中の鳥井小正一位稲荷大
明神と書る額あり崇保院公寛法親王の真蹟なり拜殿に掲しる
同神号の額は蓮花光院道恕の筆なり社祭礼は隔年三月
十一日に執行す下谷の鎮守と称せ

国立公文書館
National Archives of Japan